

県立大学基本構想に関するパブリックコメントの実施結果

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|--|
| 1 | <p>佐賀県が示した「県立大学構想」に対して自分は、歓迎はしています。</p> <p>佐賀県は島根県と並んで四年制大学の数が全国で最小です。県内の高校生は福岡や東京など県外の大学や専門学校に進学し、そのまま県外企業に就職するパターンが多いです。このままだと県内の産業が消滅するかもしれません。</p> <p>そう考えると、県立大学を作り県内高校生の受け皿を作ることはいい取り組みかもしれません。いままでそういった取り組みをしなかったからこそ、県外流出が進んでいるのだと思います。</p> <p>1990年代から2000年代にかけて全国各地で私立大学や公立大学が続々作られました。しかし佐賀県や各自治体は大学設立を全く考えませんでした。佐賀県や各自治体が共同で「一部事務組合」による公立大学や私立大学を設立し、のちに公立大学に移行する「公設民営大学」を佐賀県内に作るべきだったと思います。</p> <p>そう考えると佐賀県の対応は遅すぎです。人口流出の打開策で県立大学設立は安易すぎます。</p> | A | <p>過去に2度、県立大学の設置の必要性が議論されましたが、大学改革や地方財政制度の変革により、断念せざるを得ませんでした。</p> <p>若者の県外流出への対策が県立大学だけで解決するわけではありませんが、定住・移住施策や企業誘致にも引き続き取り組んでいきます。</p> |
| 2 | <p>「経営情報学部」は文理融合っぽいですが、「経営」ってついているから文系よりかなと思いますが、いいアイデアとは思いますが。楽しみです。</p> | A | <p>ITと経営の文理融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> |
| 3 | <p>大学院設置に関しては早すぎるし、大学の知名度が広まったら設置して欲しいです。</p> | A | <p>大学院については、開学5年目を目途に設置を検討します。</p> |
| 4 | <p>県立高校に附属コースを設けることは疑問符が付きます。それだったら県立高校の一つを県立大学の附属高校にするのが適切です。例えば致遠館中学校・高校や武雄青陵中学校・武雄高校や唐津東中学校・高校や香楠中学校・鳥栖高校の県立中高一貫校のいずれかを県立大学の附属高校としてほしいです。</p> | B | <p>どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。</p> |
| 5 | <p>県立大学の設置は反対です。</p> <p>仮に設置しても当該大学の恒常的な偏差値は70未満、すなわち60台か50台と想定されます。そのようなレベルの大学は佐賀県にとっては有害無益です。しかも現在と将来の県民に多大の負担を課するのみだからです。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 6 | <p>現在、少子化時代に、今後も減少するであろうと思われるときに、必要ないのではないか（他に国立大、私立大がある）。他県と比較することではない。県の特性を考えてよいのではないか。県内の既存の大学には、県立大学構想の学部と類似した学部が設置されているし、予定もある。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 7 | <p>県の地域性からすれば、自然の豊かさ、生産性を高める農・水産業ではないかと思われるので、現在の農業大学を発展させ、魅力ある大学にはできないかと思われる。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 8 | <p>グローバル化した社会なのに、全国に、又、世界中で学んだ人達を呼び込むことが出来る佐賀の創生が必要。</p> | B | <p>視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 9 | 自ら考え、実践することが出来る人材は、幼・小・中学校教育が人間性をつくる基礎ではないか。現在、不登校の子供の多さ、児童虐待などを解消することが、大学設置より大切ではないかと思われる。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 子どもを取り巻く課題についても、引き続き取り組んでいきます。 |
| 10 | P6に、「子供が多いにもかかわらず大学に進学する子供が少ない」とあり、必ずしも大学進学を希望していないのではないかと。何か調査された資料がありますか？ | D | 統計データはありませんが、県内に大学が少ないことも大学進学率が低い要素の一つと考えています。 |
| 11 | P4の下から2行目について「意欲ある若者が県内で活躍する」というのは、「学生生活の場面」を指しているのでしょうか、それとも、「社会人として活動する場面」を指しているのでしょうか？常識的には、「意欲ある若者が県内で活躍する」というのは、「社会人として活躍する」ことを指すと思うのですが、その文章の前段が学生数のことしか書かれていないので、「県内で学生生活を送る」機会を損失していると言いたいのか、とも思えますので。 | D | 県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 12 | 令和4年度の学校基本調査によれば、高校の普通科の生徒の割合は、全国が約74%であるのに対して、佐賀県は約55%。佐賀県の普通科の生徒の割合が全国並みだと仮定して計算すれば、進学率は50%を超える結果となる（これ位は、県も分かっていると思うが。）。 これらからすると、進学率に差があるのは、「大学の数が少ないことと無関係ではない」にしても、その関連性においては、高校における普通科の生徒数の割合の低さの方が、より影響が大きいことは明らか。にもかかわらず、さも「進学率の差」は「県内大学数の差」であるかのような記載をしているのは、ミスリードではないのか。 | D | 県内に大学が少ないことも大学進学率が低い要素の一つと考えています。 県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 13 | 『県立大学の基本的な考え方』や「建学の想い」の中で強く打ち出されている「県内高校生の県内進学機会の確保」という点が、P8「基本理念（建学の精神）」に何ら書き込まれていないのは何故なのか。大学の運営にも大きな影響を与えるものだし、そもそも「県立大学」の発想の原点がそこであるのならば、そこはきちんと書き込むべきではないか。 | A | 大学進学の見込みを増やすとの目的については、基本構想の本文に反映しました。 |
| 14 | 「新しい大学像」への挑戦とあるが、「キャリア教育・就職支援」「リカレント教育」は、社会的な要請であり、既に多くの大学で進められていますが、何を以て「新しい」と書いてあるのかが分からない。 | D | キャリア教育、リカレント教育に加えて、こどもの知的好奇心や学びに関する探究心を満たすための大学を目指します。 |
| 15 | P12の（1）キャリア教育・就業支援や（2）リカレント教育は、県立大学をつくらなくても、佐賀大学等に県の寄付講座等を設けることで実現できると思いますが、どうして直ちにやられないのですか？ | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 16 | 「基本構想」と言いながら、整備費や年間運営費について書かれていないのは何故ですか？ 「どの程度の経費（＝税金）を要するのか」によっても、当然にその構想に対する評価は変わってくると思う。幅を持たせてもいいので、その整備費や年間運営費の「程度」が分かるように記載すべきです。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 17 | 大学の「教育水準」が書かれていないので、どのレベルの大学ができるのか皆目見当がつかない。大学のイメージがつかめるように、「教育水準」についてぜひとも記載してもらいたい。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 18 | 県民座談会では批判的な意見が多いにも拘らず、県行政は設置ありきの動きが多すぎて失望している。決まってもいない県立大学の誘致合戦をやっている市町の動きも情けない。このような茶番劇はやめてほしい。佐賀新聞でも反対意見が何回か寄稿され、ネット上でも人口80万にも満たない小さな県で今時2つも大学を作ろうとしていると揶揄されている。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 19 | どこでも見るような思いだけが先行する基本構想であり、大学設置だけという点の政策である。佐賀県をどう持っていかうかといった大局的な戦略ビジョンがほとんど感じられない。佐賀県への定住化促進が目的なら、新設大学に拘らず家族ごと移住させる子育て支援など、魅力的で住みやすい街づくり政策に注力すべきではないだろうか。東京地区における神奈川・埼玉のように、福岡地区における佐賀でよいと思う。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。定住・移住施策についても、引き続き取り組んでいきます。 |
| 20 | 少子化時代の「大学の再編・統合」に真っ向から立ち向かうからには相当に覚悟が必要と思われる。明らかに縮小する市場で弱小の佐賀県が戦うには、強烈的な差別化戦略を立案し実行できる見通しがないと到底生き残れない。とても貧弱な構想であり太刀打ちできるとは思えない。設置認可はかなりハードルが高いと容易に想像される。 万が一、認可されたとしても出口戦略がなく、特に産業界と一体となった魅力ある就職先を県内に確保しないと卒業後の歩留まりはほとんど見込めない。毎年、魅力度最下位争いをしている佐賀県にどれだけ学生が集まるかははなはだ疑問である。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 21 | 建設費や運営収支の見積もりは雑で甘い見通しであり、最初から補助金依存の計画は後世に禍根を残す事業にしか見えない。公立だろうが私立だろうが独立採算でやる意気込みのない計画は早晩淘汰される。結果が出るころには誰もいないという典型的な無責任体制である。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 22 | 「熊本県」はTSMC誘致に併せて熊本大学や熊本高専の機能強化など（半導体人材育成のため全国から10数名の優秀な教授陣を先に確保するなど）やっているし、「北海道」は先端半導体ラピダスなどを大学研究機関の整備と一体化して誘致した。 このような戦略的な動きがない近視眼的な施策には到底賛成できるものではない。誰も県立大学設置の公約実現など期待していないし、ほかにやるべきことがあるはずである。時間・コストの膨大な無駄遣いはやめてほしい。今からでも遅くない。勇気をもって撤回してもらいたい。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 23 | P4下の2段落について、県内進学割合をもって、なぜ「県内で活躍できる機会を損失した」といえるのか、説明してほしいです。 県外の大学に行って、県内で活躍している人をたくさん知っています。 もし、そのように言いたいのであれば、県内大学への進学割合の動向が、県内高校卒業生の大卒後県内就職割合に、有意な影響を与えることを、データを用いて統計的に示すべきなのではないでしょうか。 | C | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 24 | P12の（1）キャリア教育・就業支援について、県内就職希望者に対する記述はありますが、県外就職希望者に対する記述は一切ありません。 県税を使ったのに県外に就職するのなら、一般的な対応しかしません、ということでしょうか？ | B | 県外就職希望者についてどのようなサポートができるのか考えていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 25 | P13の(3)子供がふだん使いできる大学について、「大学内で小学生の授業を行う」ことでは、1段落目に書いてあるようなことにならないのではないのでしょうか。 そういうことを目指すのであれば、小中高生に対して、大学という場で、普通の学校での授業ではない「特別の授業」を体験させる必要があると思うのですが…。 | B | どのような形で小中高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討します。 |
| 26 | 子供には、高いレベルの大学に行ってもらいたいと勝手に思っているのですが、県立大学では、どの程度の教育レベル(=入試の偏差値の水準等)を考えられているのでしょうか。できれば、基本構想に書き加えていただきたいです。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 27 | 県立大学の設置は反対です。 少子高齢の現在、設置より大事なことがあると思います。不登校の子ども。先生の不足等。少子を何とかすること。安心して二人でも三人でも五人でも生める環境づくり。生まれた子供がすべてすこやかに育つ環境づくり県立大学の設置の前にやることだと思っています。佐賀県が誇れる未来のために。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 子どもを取り巻く課題についても、引き続き取り組んでいきます。 |
| 28 | 時代の要請に応える実践的人材を育成する県立大学設置の取り組みが始動したことは、大変喜ばしく大きな期待を寄せているところです。県立大学基本構想(素案)を拝読して、佐賀の歴史と現況を踏まえて、未来に向けて飛躍を図る構想の考え方については全面的に賛同するものであり、その実現に向けて取り組まれることを期待しております。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 29 | 大学進学では8割を超える若者が県外に進学している事を知るなか、私の故郷は更に多くの若者が県外に進学と就職しており、地域ではUターンへの取り組みをしているのが現状である事を考える時、これらの課題を含め、地域の環境や産業と一体化した地域に溶け込む大学の設置が望まれるところです。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 30 | 幕末から明治維新に掛けて活躍した「佐賀の七賢人」の一人、藩主の鍋島直正は磁器、茶、石炭など産業育成を図る中で、教育にも力を注ぎ、藩校「弘道館」の拡充や、洋学を学ぶ「蘭学寮」を設置しました。 こうした環境の中で、県立大学における教育手法に地域密着の「特色ある教育手法」を設定することが重要であり、未来に向けたIT関連の新たな知見を探求する「道を究める」研究環境創出を地域の中で如何に位置づけて高めていくか、特色ある地域の選定が最も重要であると考えます。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 31 | 元気な佐賀を創出するためには地域環境を活かし、学術文化や市民生活の拠点として、ハードとソフトの整備を整え、その周辺に、若い世代が安心して暮らせる都市環境の整備と合わせた、人材育成を目指すキャンパスの整備を提案します。 大学設置場所については、一般的には通学利便性が考慮されますが、固定観念には捉われずに、地域の特性を活かした発展性のある未来志向の重視を望みます。 県立大学構想が、可能な限り地域の「持続可能な開発目標(SDGs)」として、未来に夢を抱き、新たな時代を創り育てる「地域大学」としての発展を願い、伊万里市を立地の選定地に位置づけられることを希望します。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 32 | 県立大学には、県内企業が抱える問題の解決ができる実学の研究セミナーが開設され、気軽に企業が受講することの出来る部署を望みます。 | B | 県内企業の期待に応えられるよう取り組んでいきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 33 | 私は、県外の大学に進み、佐賀県内で就職しています。 Uターン組は、私の周りにたくさんいます。「意欲」さえあれば、学生生活を何処で送ろうが県内で活躍できます。 P4の一番下の段落にある、県内への進学率が低いことが「意欲ある若者が県内で活躍できる機会を失ったという点で、大きな機会損失だ」との「想い」は、論理として破綻しているのではないのでしょうか。なので、そのような「想い」に基づく県立大学の設置には反対です。 | C | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 34 | P8基本理念の3～4行目の、「世の中の動きを見ながら、今と将来とを鳥瞰的に考えられる人材を育成」するための「学びの分野やカリキュラム」は、P.10の「(1)学部の構成イメージ」のどこにあるのでしょうか？ P.10の「(1)学部の構成イメージ」で示してある「学びの分野やカリキュラム」は、P.8の「(1)次代を構想する人材の育成」の5～6行目にある「鳥瞰力を生かすための学びの分野やカリキュラム」と思われ、肝心の「鳥瞰的に考えられる人材を育成するための学びの分野やカリキュラム」とは思えないのですが。 | A | 「学部の構成イメージ」をわかりやすく修正しました。 |
| 35 | 県内には佐賀大学があるわけですが、県内に進学しなかったけどしなかった人というのは、佐賀大学に合格する学力があるけど学部学科等の関係で県外に行った方、あるいは、佐賀大学に合格する学力がなくて県外に行った方、に大別することができると思いますが、この県立大学で「機会提供」したいのは、そのうちのどちらなのでしょう？ | D | 県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 36 | 子供には、大学までは行ってほしいと思っているのですが、どの程度のレベルの大学を作ろうとされているのでしょうか。基本構想に書いてもらえるとありがたいのですが。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいます。 |
| 37 | 三〇年後、百年後に地方が活性化する為には、今「人創り」に力を入れなくては未来がないと思っています。そういう意味で大学の設立というのは大きな意義があると思います。 まず、「大学」に必要なのは「理念」だと思います。どういう人を育てたいのか。ここら辺の議論が置き去りにされているように思います。大学とは就職やキャリアアップの為だけに行く所ではないと思います。人としての知識を広げ、良心を育て人の為、地球の為になる人材を育てる。そういう場所だと思います。いまの構想のままでは「小役人」を多数作るぐらいしかできないと思います。 語学、農業、芸術、医学、工学、環境、哲学などを備えた総合大学を目指してほしい。専門学校ではなく、本物の大学を創ってみませんか。 長い時間と広い視野を持って大学を設立して欲しいと心から願っています。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 38 | 大学進学を選択を否定するものではありませんが、現代の大学教育のあり方や内容、構成教員の質、受験生の意識など鑑みると、少子化や過剰な大学数の問題等ある現状で大学の 신설には反対です。 そう考える理由として ・自県大学進学が自県での就職(地域産業の担い手確保)につながるとは限らない。 ・2025年、武雄市に4年制の私立大学が開校するが、現状においてはその影響について触れられていない。 ・自県公立大学を選択する大きな要因は経済的なことではないか。ならば、大学の 신설、経営、維持管理等にかかる費用分を、奨学金や小、中、高等学校、さらには既存の大学、短大、専門学校等の教育の充実に当てる方が良いのではないかと考えています。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 39 | <p>県立大学設置について考え直して欲しい</p> <p>魅力度ランキング46位、これは決して県立大学の有無ではない。若者の働く場がないことが大きい要因だと思う。</p> <p>佐賀大学を卒業した教育学部の若者でさえ他県の企業へ流れる現実をどれくらい感じておられるのか。まずは内部を充実させる事が大事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員の満たない高校をどうするか（高等教育が少ないとあるが？） ・小中学校の不登校問題をどうするか ・教員のなり手がなく教育水準が下がっていく現状をどうするのか。 <p>まだ数えきれないほど教育の問題はある。これから知事が住み続けるであろう佐賀をどうするか考えてほしい。</p> | D | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> <p>子どもを取り巻く課題についても、引き続き取り組んでいきます。</p> |
| 40 | <p>1. 若者、高校生、大学生に意見を聞いた</p> <ul style="list-style-type: none"> ①賃金が佐賀県は安いので県外へ行く（卒業しても） ②技術を身に着けるために高校や大学に行く ③大学は目的に応じて選ぶ <p>大都市にある伝統、種類、分野が広い、多種にあるので選びやすい県外に希望する</p> <p>2. 市民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ①もっと義務教育に力を入れて欲しい (今の学校は目をおおいたい状況にあるところが多い) ②子育ての環境づくりに力を 遊び場、憩いの場、市町村によっては立派なものがある。佐賀市は少ない ③育児中の親を休めるように（休暇がとれる財力）費用の援助が欲しい <p>以上のことから税金や公費の上手な使い方をしてほしい。県立大学は不要。</p> | D | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> <p>子どもを取り巻く課題についても、引き続き取り組んでいきます。</p> |
| 41 | <p>どのようなデータを基に、設置するかどうかを判断されているかを明確にしたほうが良いと思います。</p> <p>他県にはあるが佐賀県には4年制大学が少ない、ある大学教授は必要と言っている、今後企業ではAIを含めた求人が増えるだろうなど、あいまいな点が多く散見します。</p> <p>つきましては、それこそ大学を設置したほうが良いかを「目的変数」とし、それに関わる「今後の佐賀県の生徒数、佐賀県立大学希望者、企業の求人予定者（概算）、他県の県立大学の同県に就職した生徒数など説明変数を数多く設定し、分析する。」それを判断の一つとするなどデータアナライズすることも1つの方法と言えると思います。そのために数多くの有用な客観的なデータを早急に収集し、的確に判断することが必要と思います。もちろん最終的には県民の意見を聞くことだと思います。</p> | B | <p>大学進学時に県外に8割以上（約2,800名）が進学しており、若者の人口流出が課題となっています。</p> <p>県立大学の設置の必要性について、分かりやすい説明に努めていきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 42 | <p>設置費を含めた必要経費についてです。</p> <p>もちろん施設の建設費はもとより、教授等に支払う給料や事務職、用務員、図書館担当者、医務室看護師、スクールカウンセラー、医師などの毎月発生する人件費。大学には必要な図書館の蔵書。さらにはコンピュータ及び生徒用パソコン及び維持管理費、数年で使えなくなるのでリースか買い取りの場合の減価償却費、電気・水道料、事務用品等など莫大な経費を果たして佐賀県でこれらを毎月支払うだけの税金があるのか。他の県立学校に対するバランスを十分考えてみるのが大切と考えます。</p> <p>「作るのは簡単。出来てしまって使い勝手が悪いがしょうがない」ではすまされないと考えます。新しくできた大型施設のように。</p> <p>将来に対し、十分客観的に判断されることを切望します。</p> <p>もし、設置が難しいとの意見が多かったら、担当者もNOと言える県職員であってほしい。知事のYES マンは佐賀県には不要。</p> | B | <p>具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。</p> |
| 43 | <p>佐賀県立大学建設に反対します。</p> <p>何故今県立大学を新設しなければいけないか！</p> <p>少子高齢化、入学する生徒が集まらない。転職する企業が県内にはない。企業誘致が先決ではないか。</p> <p>優秀な生徒は、金が安いとか高いとかでなく偏差値の高い大学に行く</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 44 | <p>佐賀大学の充実を願う</p> <p>佐賀大学に他の県の生徒が多いのは、親として大学には、家元からでなく他の地で自立させたいという思いがある。地元にも入学する事が、良い人材を作ることではない。</p> | B | <p>県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。</p> <p>視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます。</p> |
| 45 | <p>IT授業は大学からでは遅い。大学から、プログラミング等、勉強するのは遅いでしょう</p> | D | <p>小中高でプログラミング教育は必修化されています。</p> <p>カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。</p> |
| 46 | <p>もっと我が県にあった、専門大学、大学等を建設した方がいい。</p> <p>農業に寄与する学校（佐賀県は農業県だから）、窯業大学を充実させる。</p> <p>もっと農業で儲ける大学の充実を図ってほしい。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 47 | <p>佐賀大学に協力してレベルをあげてほしい</p> | D | <p>今後も、大学連携（TSUNAGI）事業により、佐賀大学の知見を活用して、地域課題の解決に取り組んでいきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 48 | <p>教育は、国家百年の計と言われ、地域づくりにも大きな影響を与えるものと考えます。</p> <p>設置地域は示されておりませんが、高等教育機関がない地域への大学設置は社会的影響が大きいものと考えますので、地域活性化のための高等教育機関の設置に賛同します。</p> <p>西九州新幹線の開業で、鹿島、太良地区の長崎本線沿線は住民の利便性が低下し、士気が低下した地域住民の声をよく耳にします。これを大人から聴かされる子ども達が地元への定住を考えるには厳しいものがあると気にかかる今日です。</p> <p>今後、益々利便性が低下することが予定されている地域の活性化のためには、人材育成のための高等教育機関の設置は、大きな地域活性化の糧となるものと考えます。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 49 | <p>高等教育機関において地域連携等関わってきましたので、インターンシップやリカレント教育ができる大学の設置は、地域活性化のためには有効と考えます。</p> <p>素案では、リカレント教育に重点が置かれるとのことですが、県南部地域には、働きながら学ぶことができる高等教育機関が近隣にはありません。大学院まで視野に置いた教育機関の設置による産業の活性化が必要と考えます。</p> <p>【地域別高等教育機関の状況】</p> <p>鳥栖市、唐津市（福岡県、久留米市の高等教育機関利用可能）</p> <p>佐賀市（佐賀市内の高等教育機関利用可能）</p> <p>伊万里市（佐世保市内の高等教育機関利用可能）</p> <p>武雄市（高等教育機関の新設予定あり）</p> <p>隣県の長崎県立大学シーボルト校がある長与線沿線（上下線）では、交通不便地域にあり利便性が悪いにもかかわらず、学生の移動で時間に関わらず利用者が多い状況です。また、大学のある長与町の人口を大学設置前の1995年と2020年と比較すると2割に近い人口増加である。（この間、鹿島市では2割に近い人口減少となっている）。大学設置による学生の増加で、長崎本線の利用者増や地域の活性化の可能性を高めるものと考えます。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 50 | <p>素案では、「理念」について、標榜するものが分かりづらいと思えました。</p> <p>鹿島や白石は、戦前戦後に日本のリカレント教育の必要性を示された生涯学習の父と評される田澤義舗先生や、海外青年協力隊を組織し青年を海外に派遣し国際感覚を磨いた青年の育成による日本の地域社会への貢献を意図され制度の基礎を築かれた末次一郎先生の出身地です。先人の功績を視野に置いた、30年後、50年後の日本、佐賀を見据えた理念が示された教育計画を立案することが必要だと考えます。</p> | B | <p>リカレント教育の内容、学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 51 | <p>駅から近い場所に居住していますが、近隣の高齢者率は4割を超え、一次産業（農業・漁業）の従事者も高齢化し離農者もあり、拡がる農地での実りがいつまで続くのか心配です。</p> <p>市内には地域全体が、高齢者率4割を超えている地域もあり、今後、DX活用した産業の継続が課題となってくることでしょう。</p> <p>佐賀の産業が抱えた課題解決に向けての人材育成は急務と考えます。</p> <p>大学設置に向けての、佐賀の課題の提示と大学の人材育成による課題解決のイメージなど市民に分かりやすく未来像を示して（動画等）説得力のある大学設置案を示してもらうことで理解が深まると思います。ひいては、子ども達が入学したい大学となることでしょう。</p> | B | <p>広報のあり方、手法については今後検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 52 | 知事の姿勢や議会での県職員の回答を見ていると、県民や議員からの様々な意見に対して、県立大学設置ありきで対応をしていないでしょうか。意見を受けて、やはり大学は不要という選択肢も持ちながら庁内で検討されているのでしょうか。知事が設置したいからそのために動くのではなく、大学が本当に必要なのかを議論してほしいです。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 53 | 武雄にも新しい大学が設置されるなか、少子化の時代に無名の大学がどのように人材を集めるのでしょうか。全国では、子どもは減っているのに大学は多く、定員割れして名前を書けば入れるような大学もあり、一定の教育の質を保たなければ税金の無駄使いですし、優秀な人材は結局県外に進学すると思います。偏差値はどれくらいを想定しているのでしょうか。受ければ受かる大学なら、佐賀の印象や周辺の治安を悪くさせるだけです。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 54 | 県内をみると、生まれも育ちも佐賀で一度も県外に出たことがない人より、学生や社会人で一度県外に出た人のほうが、佐賀県への愛や知識を持ちながらも外部の視点も持って、佐賀をより発展させています。県職員のUターンが多いこともそうではないでしょうか。県内に進学・就職し、佐賀県を出たことがない人が増えるのは、閉鎖的な人間を増やすことになり、将来的に佐賀県の可能性を狭めることになると思います。 | B | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます。 |
| 55 | 県内高校生が県外に進学するのは、本当に佐賀に大学がないからなのでしょう。単純に、一度県外に出てみたい、一人暮らしをしてみたい、佐賀に若者が遊べるところがないので都会に住んでみたい、という理由が大きいのではないのでしょうか。地元の優秀な学生ほど様々な大学を選べる学力があるので、県内に大学ができようと、進学しないと思います。もう一度、なぜ高校生が県外に進学するのかの理由をきちんと調査し、佐賀に必要な人材はどんな人なのか、なぜ今はその人材が集まらないのか、人を集める・育てるためにはどんな施策が必要なのか、目的と手段を整理した方がいいのではないのでしょうか。 県立大学設置ではなく、県外に進学しても帰ってこれる県内就職先の豊富さ、県内就職者への奨学金返済の免除といった施策のほうが、大学のハード整備、維持費もかからず、現実的に効果が高いと思います。 | B | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 県内就職先の開拓、企業誘致についても引き続き取り組んでいきます。 |
| 56 | 佐賀大学の入学が学部入学であり、2年次以降入学後の講義の成績の秀優良可を4321点とつけて、単位数で割るGPAの順位にコースを選ぶ大学でのコース決定となっております。この方法のほうが学生はより大学での勉強方針を定めやすいと思います。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 57 | 経営情報学部での入試、そして1年間は教養で、学ぶべき分野を成績なども考慮した仕組みが必要かと思います。もしくは4年間経営情報学部ということで、学生が主体的に単位取得できるニーズに合う勉強を続けるのも定員200-300人であれば、可能かと思います。つまり分野分けは極力しない方向性もいいのではと考えます。 | A | 学部内は学科に細分化せず、理系と文系の双方の素養、知識、センスが身につく教育を目指します。 |
| 58 | 建学に向けた想いや基本理念には賛成の立場で意見を述べさせていただきます。設置場所については、基本的な考え方に沿って、検討されるとのことですが、集まりやすい場所や通学の利便性なども選定基準とされると認識していますが、全国的にみると、人口が100万人を超える自治体にある広島国際学院大学は、現在新たな学生の募集停止を行っています。このため、設置場所の選定については、全国的な事例も参考にいただき、人口規模や利便性などを設置基準にはしないようお願いします。伊万里市には、高校以外の県立の施設が他の自治体と比較しても少ないので、伊万里への設置を強く要望させていただきます。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|--|
| 59 | 市場：国立理工系の併願校と立ち位置について。九州には国立理系との併願校に見合う大学が少ない印象があります（福岡大学、九産大学？）。文科省の理工系農学系充実の政策からも、「理系大学」の方が時代のニーズに見合うでしょう。窯業やデザイン分野も芸術と工学（と地域産業）の融合と位置付ければ真県の特徴が生きてと思います。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 60 | 情報・データ系の位置付けについて。理工系の中の分野として位置付け確立した方がいい。文系のデータ系、情報系学部は、難関校（一橋、滋賀、横浜市立など）以外での成果は危ぶまれます（数学未履修者がメインになると大きな成果は期待できません） | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 61 | 学長公募について。立命館アジア太平洋大学で、ライフネット生命創業者、自称歴史オタクの出口治明さんを抜擢した「ガチ公募」は、適任者が取れたことでもあります。注目を集めたのも一つの成果といえます。 | B | 学長については今後検討します。 |
| 62 | 私も佐賀県内の県立高校を卒業して他県の国立大学に進学しました。卒業後はある外資系企業に勤めてコンピューター黎明期の時代に国内の大企業（製造業、電力、自動車、銀行）の手作業業務から自動化へと生産性向上に参画させていただきました。県内の若者達に仕事の場を与えるためにも教育環境を考えローカルでの学びの場をご検討ください。県内の立地場所としては藤津地区（嬉野エリア、鹿島エリア）が適地かと思います。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 63 | 県立大学基本構想(素案)につきまして、わくわくしながら読ませていただきました。一点だけご意見させていただきますと、半導体の基礎知識についても全学部で学ぶ必要があるのではないかと思います。熊本へのTSMCの進出は、佐賀県にとっても半導体産業を更に誘致するチャンスであると思います。聞くところによれば、九州大学ではこのタイミングで台湾や九州の半導体関連団体と連携協定を結ばれ、半導体の専門家を育てていくほか、全学生に対しても半導体の基礎知識を指導されていくそうです。半導体は産業の米であり、現代社会のあらゆる分野で不可欠な部品となっています。ITを学ぶ上でも半導体の基礎知識を知ることは大いにプラスになると思います。ご検討よろしく願いいたします。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 64 | 「4. 教育内容・方法」「(1)学部の構成イメージ」の中の学部経営情報学部以外に公共交通学部を入れてみてはどうだろうか。西九州ルートの問題で佐賀県が置かれている問題そして、今後少子化が進み公共交通が維持できない環境になってきている中でどのように守っていくのかを考える必要があるのではと思いを学部として作ってみてはどうかと思立った。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 65 | 現在私はネット関係の仕事を行っております。高校を卒業して県外に行きましたが、地元に戻って働きながら専門学校で社会人向けのコースに夜通いIT関連の資格の勉強をしました。アメリカにも行きましたが、多数の社会人向けのコースが用意されてきました。どうか、新しい大学構想では社会人向けの夜間コースやオンラインコースをも幅広く門戸を開いて欲しいと思います。これから少子高齢化になり、大学生だけでは色々としんどいと思います。何歳になっても人間は「知的好奇心」が満足した時が一番幸せになると信じています。宜しくお願いします。 | B | リカレント教育も進めていきます。その内容については、専門家とともに検討していきます。 |
| 66 | 可能であれば、理工学部、農学部も視野に入れた大学にして頂きたいと考えます。ものづくりの観点から理工学部、佐賀県の主力産業である農業の観点から農学部を構想に入れて頂きたい。最初から必要というわけではないのですが、経営情報学部だけでは、本来の佐賀県らしさが出ないと考えている次第です。予算の関係もあると思いますが、構想には入れて頂いて、いつか理工学部や農学部もできるスタンスは欲しいと考えますので、宜しくお願い致します。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 67 | 入学定員の200～300人とありますが、入学生の内佐賀県内高校の卒業生は何人想定か記載してください。大学進学時に県内の高校卒業者が県外に流出することを防ぐことが目的なら、県立大学がどの程度流出を防ぐ効果があるのか明記しないのは、さすがに無責任すぎて県民をバカにし過ぎています。目標が具体的でないため、大学は単に手段でしかなく退職した県職員の再就職先を作ることが目的に見えるのでイメージが良くないです。 | B | 県内から多くの方に入学会してほしいと考えており、そのための地域枠、専門高校枠などを検討していきます。 専門家とともにどのような目標設定が可能か検討していきます。 |
| 68 | 佐賀に仕事があると記載がありますが、低賃金の仕事がありますに修正してください。公務員の賃金は大都市並みでも一般企業の賃金は大都市の半分程度のところが多いです。このため、県内の大学を卒業してもほとんどが大都市の企業に就職します（詳しいデータは県で調べてください）。 | C | 有効求人倍率が高水準で推移しており、県内企業の人手不足感が続いています。 卒業生が就職したいと思える企業の誘致にも引き続き取り組んでいきます。 |
| 69 | 県立大学の計画があることは知人から聞きましたが、県内への周知が偏っているのではないのでしょうか。 | B | 広報のあり方、手法については今後検討していきます。 |
| 70 | 大学設置よりも、高校生の進路を選べるように高校教育に力を入れるべきではないでしょうか。佐賀大学を不合格になって県外の私立大学に進学する子供でも、大学受験対策ができて佐賀大学に合格できれば県外流出を防ぐことができます。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 71 | 今更で文系学部を作るなら国際教養大学レベルの傑出した学部にしてください。全国から優秀な若者が佐賀に集まる大学にしてください。佐賀大学の穴を埋めつつ優秀な人材基地として企業誘致にも繋がるような大学にして欲しい、理工学部に関しては佐賀大学と重複しても全然構わない。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 72 | 佐賀県の弱点は高校を卒業したら佐大へ行く、公務員になる、地元中小企業へ就職する、家業継承する以外では若者が佐賀へ留まれない事です、大学卒業後も同様です。どうか佐賀の若者が佐賀へ留まれるように企業誘致にも繋がる良い大学を作ってください。念のため申し添えますが佐賀自体が田舎ですから更にと田舎へ大学を作って学生が4年間そこに居たくないと思われるような場所には作らないでください。県立大学に期待しています。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、就職先の開拓に努めます。 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 73 | 現在、子どもが県内国立大学に通っています。うちの子どももそうですが、同じ大学に通っている友達も佐賀が大好きで、「佐賀県内に大学があるのに他の県の大学に行く必要は無い。」と言って、県内の大学を選んでいきます。少々遠くても、地元が好きだから...と、自宅から通っている子がほとんどです。また、皆、理系の学部で在籍しており、ほとんどの子が大学院への進学を目指しています。ところが、です。院を出ても、自分の研究を生かせる企業、行きたいと思える企業が県内に無くて、県外への就職しれない。そうなっても仕方ない。本当は佐賀に居たいのに。そう嘆いています。佐賀から出たくないと思っているのに、本当に可哀想だし、佐賀県にとってももったいない話だと思います。県立大学という選択肢が増えるのは子供たちにとって、とても良いと思います。ただ、是非その先の人材の受け入れ先を充実させていただきたいと、切に願っています。親としても、佐賀から出ていなくて良ければ、それが一番良いので。ご検討の程、よろしく願い致します。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、就職先の開拓に努めます。 研究機関の誘致を含め、引き続き企業誘致に取り組んでいきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 74 | <p>FA=自動化&産業ロボット化を進める人財→生産技術人財育成コースを設けてほしい！この種は高専にあるが実践的ではない機関がほとんどです。理由はPC系ソフトウェアに依存し過ぎて製品／ハード／ユーティリティ／市場を大学でも教えていないから。</p> <p>即戦力を育成するような工業系大学は企業出資のところだけでは？佐賀県の東西部は超大手企業があるのに機密情報として生産技術を公開していませんが元従業員は多数います。</p> <p>私の考えは産業技術学院の電気機械コース+通常大学基礎を県立大学2年生までに習得。定員は少数精鋭で50名までに抑えないと県マイスター活用でも技術継承できない。3年生は県内企業の自動化実習、企業は県独自の補助金活用、社内内製部署立上げを条件とし学生にはアルバイト斡旋形式で実体験させる。4年生は個人判断だが県内企業就職5年条件で何かしらの補助金をだす。企業も同様の補助金を活用させる。人財流出防止の報告義務など防止策は必須。上記の考えを県立大学構想の発表時点で考えていました。</p> <p>個人的な候補地は県北部唐津市山本付近です。理由は県施設が北西部には極端に少なく意外と大手企業が存在するので講師陣が埋もれています。ぜひ、人財育成のため他県には無いコース設立を懇願します。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 75 | <p>県立大学に賛成です。佐賀県に大学が少ないことをもっと重く受け止めるべきです。県の予算がかかるから他県の大学に行けば良い、というような意見があることがとても残念です。</p> | A | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> |
| 76 | <p>P5に記載のある「伝統的な文系と理系を分ける学部構成だけではなく」という理念に大賛成です。社会に出れば、文系だから、理系だからということは通じません。もちろん、文系的なことが得意、理系的なことが得意ということはあるので、学部構成の分野が分かれていることはその通りだと思います。（教育内容の部分は、分野が学科のイメージだと理解したうえでの意見です。違っていたら、すみませんがそう見えます）。</p> | A | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> |
| 77 | <p>P10には、マネジメント分野、情報分野、ビジネスデータ分析分野と分かれていて、その内容が記述されていますが、これを見ると学部は一つでも「伝統的な文系と理系」が分野で分かれているように見えます。主に各分野の学びを中心とするが、マネジメント分野を学ぶ学生にも、情報やデータ活用を学ぶことが必要とする、などにしないと「伝統的な文系と理系」に分かれてしまうように見えます。履修科目で、学生の目指す分野の能力を伸ばすようにはできないのでしょうか。入学時から分野で分ける必要があるのでしょうか。</p> | A | <p>「学部の構成イメージ」をわかりやすく修正しました。</p> <p>学部内は学科に細分化せず、理系と文系の双方の素養、知識、センスが身につく教育を目指します。</p> |
| 78 | <p>県内在住者です。県立大学を作って税金が上がるのはやめてほしいです。交付金を使うなら直接は上がらないかもしれませんが回り回ってやはり将来的に税金は上がります。150年前と状況が違い歴史を持ち出すのは無意味です。経営を学んだ人は飽和してまず県内の理系クラスは上位高校にしかなく情報では理系の下位層しか来ません。専門学校に行っていた層が大卒に移るだけです。情報技術はオンザジョブトレーニングのほうがよく、四年通うのは社会的損失です。見当外れなことをしないで税金を下げて下さい。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|---|-----|---|
| 79 | <p>今後の佐賀県の人口予測を考えると、新たに県立大学を新設することはリスクが高く、むしろ、私立大学等の公立化の必要性に迫られる時期が来るかもしれない。一方、優良な大学が県内になく、優秀な人材が18歳で県外に流出していることは、まぎれもない事実である。このことを防ぐためには、むしろ高等専門学校（高専）の設置を提案したい。高専は、全国で57校、約6万人の学生を抱える実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関である。現在の大学は、4年生で、うち1年強は一般教養、3年後半から就職活動に追われることを考えると、専門課程を本気で勉強できる期間はたかだか2年程度に過ぎない。一方、高専は、15歳から5年間の教育期間があり、目的意識を持つ学生が集まっている。高専の学生の優秀さは、DCON、ロボコンを見てもわかるが、何より、自発的に取り組む姿勢が素晴らしい。優秀な高専生は、卒業時に有名大学に卒業後、3年次編入をするため、大学3年・4年に必要なカリキュラム等を準備しなくてよいことも設置の利点である。これに加えて、高専3年修了時に佐賀大学医学部や他の国公立大学の薬学部や獣医学部などへ推薦で行ける道を作れば、新設高専のアピールポイントになる。さらに、これらの職については、県内で一定期間働くことを条件に奨学金制度などを設ければ、不足する人材確保にもつながる。（追伸）バブコメ募集時点で作成したが、提出を躊躇していた。質問と答弁を議会公式チャンネルで視聴して提出することとした。議会答弁では、ランニングコストの財政試算に地方交付税を挙げていたが、小泉内閣時代の交付税カットを経験した者としては、危惧を覚える。</p> | D | <p>高等教育機関の充実には高等専門学校も有効だと考えています。今後どのような手法が採り得るのか、引き続き研究していきます。</p> |
| 80 | <p>佐賀県立大学の設立に反対します。佐賀県の高校生が県外に進学する理由は、嫌悪感を持っているからです。県税を使ってネット検閲を行い児童生徒を取り締まる、目視で下着検査をしていた、部活動や学校生活に支障があるほどの量の宿題を出す、佐賀に誇りを持つことが強要される、8年前には学習用PCを購入しなければ高校入学を保留すると言って中学生と保護者を恫喝しました。こうした姿勢を改めなければ、県立大学を設立しても県内進学者は増えません。</p> | D | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 81 | <p>県立大学基本構想（素案）は大体概ね良く出来ていると評価します。そのうえで、補完したいもの、足りないものを今回記載させて貰います。 医工連携の視点。将来性のある分野である東洋医学（漢方の研究など北里大学にあるようなもの）や医療技術－医療とICTの組合せ、医療政策分野（九大に既設）など、他の大学ではあまり見かけないような分野、しかも将来性のある分野を入れる必要があります。大学の価値向上、魅力度アップにつながると思います。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 82 | <p>芸術分野の人材育成の視点－伝統文化の継承と芸術家の育成。現在、高校では佐賀北高校に芸術家コースがあるがその進路が都会に行かないとないので、そういう芸術家（音楽・美術・書道など）育成の受け皿があれば、地元とのコラボが出来て大学の価値向上につながる。例えば、国際芸術祭などを企画して、焼物と音楽、温泉を通じたテーマで世界中から留学生や人を呼び寄せることをしたら面白いと思います。現在、バルーン大会や古湯国際映画祭などが私の知る限りでは開催しています。それを大学が中心となり、日常的に留学生や海外からの研究者を集めることが出来れば交流人口も増加すると思います。</p> | B | <p>地域における大学への期待に応えられるよう取り組んでいきます。</p> |
| 83 | <p>大学院修士課程を速やかに設置。高度な人材を育成するためには、大学院修士、できれば博士課程までの設置を視野にいれた大学設置を考えるべきです。修士学位は世界では常識です。</p> | A | <p>大学院については、開学5年目を目途に設置を検討します。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 84 | 多様な学生と留学生を招致するための全寮制（国際寮）の設置－100人～200人くらい収容できる大規模な寮。保護者の負担を軽減するためと、学生の協調性を養うために国際混合寮を設置するべきである（パリにある国際学生寮は社会人夫婦の学生でも宿泊できる）。学生は社会人枠を最初から設けていく。留学生もあまり偏りが無い国から受け入れるべきです。教員は、実務家教員を多く配置すべきです。また、実業界との連携も必要不可欠です。また、他大学との履修も可能とし単位互換を進めるようにすべきです。 | B | 視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます。 |
| 85 | 最後にロケーションであるが、温泉や焼物、交通の利便性などを考慮すると、私見では「武雄」付近が最良ではないかと考える。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 86 | 数値目標を明らかにしてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・問題点に数値が出ているので目標を数値化できるはず ・そもそもたたき台を作成する前に数値目標を設定するべきでは？ ・県がマネジメントの基本的なことができていないのはおかしい ・この程度もできないのだったら県は何もしない方がよい ・数値目標なしでどうやって効果検証したのか | B | 専門家とともにどのような目標設定が可能か検討していきます。 |
| 87 | 大学設立の想定予算を明らかにしてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・想定はしているはず | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 88 | 学科が佐賀大学と競合して西九州大学と競合していない理由を明記してほしい <ul style="list-style-type: none"> ・競合させるなら授業料の高い私立大学と競合させるべきでは ・私立大学の授業料が払えない学生が県外の公立大学に行くケースの対策をしてほしい ・佐賀大学のITとマネジメントの分野の研究は長い歴史があり類似の学科を作っても佐賀大学に勝てない ・佐賀大学に無い介護やスポーツ科学のように福祉系の学科の方が足りていない | B | 佐賀大学、西九州大学とも連携を取りながら、県内の高等教育機関の充実を図っていきたいと考えています。 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 89 | 県や市の退職者が県立大学の教員や職員に再就職できないようにしてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・大学がお役所仕事になるのは良くない（県や市の研究機関の博士号を持った研究者は除く） | B | 教員や職員の採用の在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 90 | 県立大学には県内の全ての市町村から直通の公共交通機関を整備してほしい <ul style="list-style-type: none"> ・実家から通えないのであれば県立大学の所在地周辺にしか恩恵がない ・大学周辺住民のみにサービス提供を考えているならそう明記するべき ・寮や下宿を利用しないと通えないのであれば県外の名門大学に行く | B | 設置場所については、企業や教育機関など関係機関との連携を図る観点と、通学利便性等も考慮するとともに、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 91 | 旧国立大学や私立大学のサテライトキャンパスを誘致しない理由を教えてください <ul style="list-style-type: none"> ・私立大学を誘致したうえで県出身の学生に給付型の奨学金を支給するのはダメなのか ・大学設立や運営の素人である県職員が民間のプロよりいいものを作れるとは思えない | D | 他県に根付いている大学を誘致するのは容易ではありませんが、県内の高等教育の充実は重要と考えており、機会があれば検討していきます。 |
| 92 | 大学設立を目的にしないほしい <ul style="list-style-type: none"> ・県出身者が県外の大学へ入学するのをどの程度防ぐことができたのかを含めた評価が毎年必要 ・学生が足りないから数合わせで他県や他国から学生を招き入れるような事態になりそう | B | 県内から多くの方々へ入学してほしいと考えており、そのための地域枠、専門高校枠などを検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|----|--|-----|--|
| 93 | <p>意見を求めるのに匿名はおかしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールなので従うが県庁職員が自己肯定することが可能 ・どのドメインからどういう意見がきているのかは公開してほしい | D | <p>多くの方から忌憚のないご意見を頂戴するため、氏名等の個人情報等の記載は不要としています。</p> |
| 94 | <p>大学新設場所への意見。人口減少社会の中で、県立大学を新設するなら、佐賀県だけではなく、全国から学生を集められるような大学にするべきです。</p> <p>県立大学の新設はJRの駅周辺に希望します。私も学生時代は県外の大学に進学しましたが、通いやすい駅から近い大学を選びました。駅から徒歩で行ける大学は県内、県外から選ばれる大学になるためには絶対に必要な条件です。鉄道駅から歩いて行けない大学を私なら絶対に選びません。鉄道のない田畑に大学を作るような考えなら、建設は反対します。佐賀県内にJRの駅から歩いていける大学はないと思います。特に佐賀県東部は福岡都市圏からの鉄道でのアクセスが優れています。そこで大学新設を希望するJRの駅を提案します。</p> <p>1・鳥栖市（基山町含む）</p> <p>鳥栖市に新設する場合は鉄道の本数が多い鹿児島本線の博多－鳥栖間の佐賀県内のJR駅です。久光製薬の研究所なども新設が進み、大学との連携がとりやすい。</p> <p>A・鳥栖駅 周辺。鹿児島線が通り、長崎線の終着駅なので理想の位置です。</p> <p>B・弥生が丘駅 周辺。閑静な住宅が多く、周辺環境も良い。鉄道でのアクセスも悪くありません。</p> <p>2・佐賀市</p> <p>A・佐賀駅 周辺。県庁所在地で土地の確保は難しいかもしれませんが、SAGAアリーナまでかなりの距離なら徒歩での通学ができます。</p> <p>B・伊賀屋駅 周辺。伊賀屋駅周辺を区画整理して大学のある新しい街を開発する。</p> <p>3・唐津市</p> <p>A・唐津駅 周辺。県内各地からの鉄道でのアクセスは良くはありませんが、福岡市内から地下鉄で直接行けるのは便利だと思います。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 95 | <p>その他の建設についての意見。アクセスが良く土地のあるJR沿線に大学建設を計画し、請願駅を作り、新たに大学を中心にした街を作る。また街中に建設する場合は土地活用的に商業施設などと組み合わせた複合的な施設にする。県西部は武雄市に大学新設計画があるので、県立大学は他の場所が望ましい。人口減少問題もあるので、開学は前倒しにできるくらい早い方が良い。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 96 | <p>大学名への意見。佐賀県立大学ではなく、全国から県立大学への入学を目指したくなるような考えで大学名を決めて欲しい。</p> | B | <p>「佐賀県立大学（仮称）」を基本に考えていきます。</p> |
| 97 | <p>そもそも県立大学は不要。佐賀の大学に進学して佐賀で就職する学生の割合のリサーチがどの程度できているかが不明。佐賀大学を卒業して福岡市内の企業に就職した学生に質問したところ「佐賀には魅力的な企業がない」ということで佐賀への就職をしていないということ。大学設置に力を入れても効果は不明である。魅力ある企業を増やすことが先決である。大学を設置してもその維持管理をやっていく自治体の負担も小さくはない。</p> | B | <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> <p>引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 98 | 佐賀県立大学が県民流出を食い止めるのを目的になどあまりにも消極的すぎる。絶対失敗するだろう。もっと全世界から優秀な留学生を受け入れ、将来佐賀県で働き佐賀県を活性化させてくれる世界人を育てる大学を目指すべきだと思う。世界から佐賀県立大学で学び、成功する人を育て、できれば佐賀で活躍したいと思う人を増やし、人口増加を図るべきである。佐賀県起死回生の夢がある。日本は人口減少してるけど世界では人口増加してるんだから。 | B | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます。 |
| 99 | この度はパブリックコメントで意見を述べる機会があり、大変嬉しく思います。まず持って現在中学三年生を持つ親として、大学の 신설には賛成です。私には4人の子供がいますが、そのうち3人は県外に。すべてはこれまでの選択肢の少なさです。たしかに高齢の方々にとっては今更大学新設なんて税金の無駄遣いだと感じられるかもしれません。しかし、まさにその考えが今の教育の衰退を生んでるのだと思います。教育にはできるだけ金をかけない、負担は親がして当然、そんな考えばかりだから進学を諦めたり、環境の良い他県に有望な人材が流出したりと、佐賀の競争力を奪ってしまったのだと思います。社会で若者を育てる、佐賀の人材は佐賀で育てる、佐賀を、日本を次の予測の付かない時代で最高のものにするためには、新たな教育機関が必要です。山口知事、よくぞ決断していただいたと思ってます。子どもたちが佐賀に誇りを持ち、志高く学んでいく環境が整っていけば、それが良い循環を生み、きっと佐賀最高が実現するものと思います。もちろん佐賀に学生を集めるためには、魅力ある教育課程と学生への公的な財政支援も必要です。本気の姿勢を期待してます。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 100 | 県立大学設置には反対です。それより、佐賀県を担って欲しい若い人達には、好きな場所で学んで欲しい。外の世界や人と関わることで、「やっぱり佐賀がいい！佐賀で生きたい！生きたい！働きたい！」と気付いて帰って来たくなる佐賀になればいいのではないかと。私自身、必要に迫られて転勤族だった時期がありますが、佐賀を離れたことで、佐賀の魅力や良さに沢山気付かされた経験があります。その為に佐賀に企業誘致や、農業、漁業、畜産業などを最先端の儲かる仕事にする、医療、教育、福祉従事者など、人に関わる仕事に就く人の待遇改善など、既存の枠にとらわれず、改革していくことが必要と私は考えます。 | C | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 101 | 子どもたちの進学先の確保ということで県立大学を整備するということは大変有効なことだと思います。 ここ最近のコロナで医療職の育成の重要性が明らかになったと思いますが現在県内で医師、看護師を除く医療職（検査技師、放射線技師、薬剤師、管理栄養士等）を養成する大学はなく、県外に出ていくことを余儀なくされます。 また、好生館も地方独立行政法人と別法人であることから新たに設置する公立学校法人に上記医療職の関連学部を追加また、好生館の附属看護学校も学部化し、好生館を附属病院として設置すれば佐賀の医療に厚みを持たせることにもつながるでしょうし、新たに公立学校法人の職員を一から募集するよりも効率的ではないでしょうか。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 102 | <p>佐賀県立大学の新設の意図として、佐賀県(大学及び大学院)で学び、佐賀県で就職、起業してもらい定住してもらうことを目的としていると解釈しました。また、学部が、マネジメント・情報分野・ビジネスデータ分析を想定されているとのことですが。そこに、「デザイン経営(デザイン思考)」を学ぶ分野を入れることができないかと思いました。なぜならば、佐賀県は稼げる県を目指し、全国から色々な方に来ていただく戦略を考えていて、それに伴いIT人材を増やそうとしています。これは、稼げる街や人口減少の地域づくりに必要不可欠なことと言えます。ですが、時に稼ぐ事(ITジャンルにおける)は、地域の文化や風土、歴史を犠牲にすることが多々見受けられるような気がしています。ITジャンルの思考は数字に強いが上に、数字に反映されにくい魅力(土地の雰囲気など)を見落としがち傾向にあります。佐賀に定住する理由は、稼げることだけではないはず。美しい山や海、美味しい肉や魚や農作物、伝統的な工芸、なにより親切な人々、和やかな街の雰囲気インバウンド観光客であれば、オフィスビルではなく、なおさらこういうものを求めます。稼げることを最大目標であれば、佐賀で学んだのちに、優秀であればあるほど、より稼ぐために東京や海外を目指すでしょう。佐賀の良さを守りながら稼ぐためにITで稼ぐ→「土地の魅力や風土×IT=稼ぐ」にするには、デザイン経営や思考を取り入れ、地域資源や地元のクリエイターを活かすことが必要不可欠だと思います。現状、地元経営者は、デザインやブランディングのことを真から理解しておらず、取り入れたくても取り入れきれず、関係に悩んでいるのを多々見かけます。一例に過ぎませんが、デザイン思考を持つ企業を講師として中川政七商店(奈良)に、ブランディング手法を、地域文化商社うなぎの寝床(福岡)に、地域産業とのビジネス関係を、YAMAP(福岡)に、自然とITによる人の行動変革を、定期的に学ぶ機会を与えてみてはどうでしょうか。新しい人材が、佐賀の人と風土を大切にしながら稼ぎ、全国に例を見ないリーダーを佐賀県立大学から輩出できることを期待しています。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 103 | <p>県立大学の設置について。賛成です。子供が県外の大学へと進学いたしました。理由は、県内での選択肢がなかったこと。これからの子供たちのため、選択肢を公的な立場から広げてあげることが佐賀県をもっと発展をさせていくために必要だと考えます。2つ目の理由として、昼間の佐賀県内の様子を見てみるとわかります。歩いているのはどの地域でもほぼ高齢者。それに比べて、隣の福岡や長崎、熊本は、やはり学生など若者の行き交う姿が多くみられます。店に入っても、学生アルバイトなど、経済活動にも大いに貢献しています。佐賀のいずれの街も、若者が残らない街になってしまっているように思います。公立、私立含め、大学が複数設置をされることで初めて若者が定着をしていくのではないのでしょうか。</p> <p>先日行われた座談会の様子を報道で拝見しました。少子化の中で設置が適切なのかどうかなどの意見が出されておりました。ごもっともな意見だと思います。他の大学と変わらない学校であれば、人が集まるはずもありません。その学部の内容の充実が大切だと思います。まさに、県の教育施策の中で示されているように「唯一無二の誇り高き学校づくり」を行うべきだと思います。他にはない、ここでしか学べない、全国から、世界から学びたいという学生が集まる超個性的、未来を見据えた先進的な学部にしてほしいと思います。日本、アジア、そして世界をリードする研究、人材育成ができる大学としてほしいと思います。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 104 | <p>名称について。「佐賀県立大学」というのもまさに大学をそのまま表す名称であり、わかりやすいと思います。しかし、幅広く人を集めていくためにはもう少し深く考えるべきではないでしょうか。あまりに、古典的すぎる名称で、新しい大学に必要な新鮮味がありません。</p> | B | <p>「佐賀県立大学(仮称)」を基本に考えていきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 105 | <p>「8. 佐賀県出身者の受け入れ」、「地域枠や実業高校枠の設定や、県内高等学校に県立大学附属のコース・クラスを設置することなどにより、県立大学で学びたい県内の志ある生徒を受け入れます。また、県内から入学する学生に対し、一定の要件のもと、入学金・授業料の減額や無償化など経済的負担を軽減します。」について。</p> <p>佐賀県出身者については、やはり優遇は必要だと思います。入学金・授業料の減額、無償化などが「一定の要件」とされていることについては、ぜひ門戸を広げてほしいところです。現在でも奨学金をもらい、それをやりくりしながら生活をしている学生が多くいます。佐賀に生まれ、佐賀に育ち、佐賀の高校を卒業し、そして地元の大学を選ぶ学生のための、給付型奨学金を創設したり、無条件で入学金を無償にするなど、「異次元」の対策が必要だと思います。</p> | B | <p>経済的負担の軽減については引き続き検討していきます。</p> |
| 106 | <p>設置に慎重な方々の意見は、いずれも否定的な側面ばかりを心配されていると感じます。これまでの佐賀県が全国的に見てもその存在感を示すことができていないのは、佐賀県としてチャレンジ精神のなさだと思います。まさに他県に後れを取っているところではないでしょうか。学力調査の低さも、高等教育機関の少なさが影響しているとも言えます。どれだけ現場の先生方が頑張っても、その上に確固たる教育機関が存在していなければ、伸びてはいかないものです。人を育てるために消極的になっては、優秀な人材は育ちません。未来を担う子供たちのため、佐賀県の未来のために、ぜひ素晴らしい大学を設置していただきたいと思います。</p> | A | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> |
| 107 | <p>貴県のご計画については、これまで何度か「公立大学設置」の構想が議論されてきた経緯をお持ちと理解しておりますが、例えば今回で申せば、2028年度の開学予定から逆算すると、準備期間としてあと5年を切っております。釈迦に説法となり恐縮ですが、公立大学法人の設置、大学の設置候補地の選定、(要すれば)土地の収用、キャンパスの建設、教職員採用、海外提携校の開拓、留学生獲得、ブランディング、広報活動、設置認可申請書の執筆等、大きく分類しても設置準備期間においてこれだけの業務が山積している状況下、スケジュール的に、率直に申し上げて、2028年度の開学(予定)に間に合うのだろうかと思いました。設置認可を得てからも、時間割の作成、学生募集、入試の実施、さらなる教職員採用、そして大学規程の整備、学生便覧の作成等、すぐに思いつくだけでもこれだけの業務があります。</p> | B | <p>専門家チームとともに、様々な課題への対応について整理していきます。</p> |
| 108 | <p>先日の説明会には参加しました。基本的には大学設置については、賛成ですが、多大な費用がかかるわけですので、新幹線の問題のように同じスタンスで慎重に意見を蒐集して設置構想を進めていただきたい。県のスタッフの説明の中で、運営収支の中で、年間費用は約10億円と想定されるが、国からの交付金が約8億円あり、差引したら、佐賀県の実質的負担は2億円で、そんなに重くないとのニュアンスに聞こえます。私たちは、県民の前に国民であるので、交付金も同じ税金であり、県民に対し、「差引したら佐賀県の負担はそんなに大きくない」と、ことさら説明の際に印象付けるのは控えていただきたい。</p> | D | <p>県財政運営への影響等を懸念する声もあることから、国から県に対して公立大学設置に伴う地方交付税が交付される見込みであることを説明しています。</p> <p>今後とも丁寧に説明していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 109 | <p>既存私立大学つぶし。佐賀県に公立大学がなく、2つの大学しかないという4～6ページに述べられている通り、県内の高校生が安価で高等教育を受けられる機会は少ない。自県大学進学率の低さは今に始まったことではなく、数十年も前からの課題であり、2015年の佐賀県の総合計画の「高等教育の充実」には平成36年度までに自県大学進学率を25%にするとの目標が明記されていたにもかかわらず、県は何の措置も講じることなく、県議の方々も質問もなく、2019年の総計の見直しにあたっては、25%の目標値は削除され、2019年に19.0との目標のみの表記にとどまっている。そして、令和4年に県内出生数が6,000人となった今、やっと県立大学構想とは「時すでに遅し」と言わざるを得ない。既に、県内唯一の私立大学として頑張ってきた西九州大学では、ここ数年、学生の定員割れが続き、受験者全員をほぼ入学させる全入対応をしてもなお、入学者が減り続けている状況である。この上、県立大学ができれば、西九州大学の存続が困難になることは明白であり、同大学が佐賀県で努力し、築き上げてきた地域連携の歴史や人材育成が危ぶまれることとなる。</p> | B | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> <p>私立大学だけでなく、佐賀大学とも連携を取りながら、県内の高等教育機関の充実を図っていききたいと考えています。</p> |
| 110 | <p>大学教員の不足。県の構想では、経営情報学部として「マネジメント分野」、「情報分野」、「ビジネスデータ分野」の教育を目指しているとのことであるが、その分野の教員についての現在の公募状況は、全国で908名となっている。文科省が、その分野への補助金を強化したため、全国の大学がこぞって学部を改変した。佐賀大学及び西九州大学も例外ではなく、全国的な傾向である。そのため、その分野の教員不足が深刻で、教員の売り手市場となり、優秀な教員はそれなりの報酬でハンティングされていき、後発の県が、適当な教員を採用するのが困難な状況である。現場実践者を教員にする場合は、文科省の審査が必要であり簡単ではない、ましてや大学院の教員など、新しい分野での博士号取得者は少なく、これからの分野に手を出すには、佐賀県という公共団体が太刀打ちできる世界ではないと考える。県で努力し、築き上げてきた地域連携の歴史や人材育成が危ぶまれることとなる。</p> | B | <p>協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。</p> |
| 111 | <p>教員の質等の課題。設立する側に「佐賀県を盛り上げる」気持ちがあっても、そこで働く教員にその意識を浸透させることは困難であり、むしろ浸透させようと縛るほど教員は離れ、基本理念は絵に描いた餅にしかかなり得ないと予測される。大学教員は事務方が操作できる人材ではないことを肝に銘じておく必要がある。</p> | B | <p>協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。</p> |
| 112 | <p>文科省の高等教育への縛りの強さと研究費獲得の困難さ。大学は教育機関であると同時に研究機関・社会貢献機関でもある。教育に関して、文科省は3Pやその実現のための評価のルーブリック作成、シラバス作成に伴う評価点数の配分項目など、微に入り細に入り基準を設けており、その縛りは強く、教員の自由度はなく、大学としても文科省の意向に沿い教員を指導していくのは非常に困難である。また、科学研究費を獲得することが大学のステータスであるが、その採択率は3割程度であり、国立主要大学が多くを占め、新設大学では非常に厳しい。そのため、大学は独自で教員に対し研究費を支給する必要があるが、有名私立大学では大きい金額が、地方私立や国立等では低額になり、教員がこれらの大学を去る原因にもなる。大学独自の研究費で基礎研究をしてこそ、文科省の科研費を獲得できるのであり、そこにも大学は予算を割く必要がある。佐賀県の予算と公務員の能力が教員の研究費獲得に費やされるのが妥当なのか疑問である。</p> | B | <p>大学経営の在り方については、今後、具体的に専門家とともに検討していきます。</p> |
| 113 | <p>保護者の分離困難とクレーマー化への対応。今の大学では、学生はカスタマー（顧客）である。県立であっても年間50万以上を支払う以上、学生にも保護者にも権利意識がある。いずれの大学でも、学生の様々な問題行動や精神的な課題がある。また、保護者が授業のやり方や教員の言動にクレームをつけてくることも多い。子どもの能力を客観視できないことも多く、責任を大学に全て投げかけ、弁護士沙汰になることもある。事故や犯罪の被害者や加害者となることもあり、18歳以上の成人であれば、名前と大学名が表に出る危険もある。このような対応を公務員が行うことが佐賀県のためといえるのか疑問である。</p> | B | <p>大学経営の在り方については、今後、具体的に専門家とともに検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 114 | <p>膨大な設立予算と永遠に続く経費と維持費と県職員の疲労。佐賀県は「維新博」に続き、途中コロナ対策に振り回されつつ、「SAGA2024」に向けて追い込みの段階であり、その次のステップとして「県立大学構想」かと推察する。新プロジェクトは雇用創出の場として必要かもしれないが、やはり、長崎新幹線の延伸を阻止したのと同様に、費用対効果を検証していくことが重要である。未曾有の少子化を迎え、もはや、大学新設の段階ではない。既存資源の活用こそが、佐賀県の佐賀県らしさだと考える。ここまで「公立大学」なしでできたのであれば、費用対効果を考え、貫くべきである。そして、これまで佐賀県を支え続けてきた大学と共に歩む姿勢を強化する方が望ましいと考える。大学で働く人間として、大学に勤め続けたいと考える人間は本当に少ないのではないだろうか。少なくとも私の周囲は常に「やめたい」であり、転職者も多い。唯一の救いは「学生」である。その学生の質は年々低下、幼児化し、その保護者もまた同様である。そのような対応の苦勞を自治体が担うべきではないというのが、私の率直な思いである。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 115 | <p>「県立大学」設置に、私は反対である。県立大学を新設しなくても、自県進学率向の実現は、以下の方法で可能であると考えている。</p> <p>学部生への地域枠奨学金制度の応用。現在、西九州大学においては、学生の6割が何らかの奨学金を受給し、就職後の返済の課題を抱えている。また、職種によっては、例えば大分県は県独自の看護師奨学金制度を持ち、看護師確保のために奨学金を支給し、自県への就職を促進している。しかし、佐賀県にはその制度が一切なく、学生の相談に答えられない現状である。従って、佐賀大学や西九州大学のそれぞれの学部佐賀大学医学部のように地域枠を設け、県内学生を進学させ、年間100万程度を支給し、支給年数の1.5～2倍の期間の県内就職で返還免除を規定するというやり方が、現実的であり、大学設立よりも費用対効果も高いと考える。</p> <p>例としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の教員不足は深刻であるが、佐賀大学と西九州大学の子ども科の学生への奨学金支給し、教育委員会との連携を検討する。 ・西九州大学の社会福祉学科にこども家庭庁が新たに新設した「こども家庭ソーシャルワーカー」を養成し、「子育てしたい県」とリンクさせるなどの方法もある。高校生へのアンケート調査では、社会福祉分野では、高齢者福祉より児童福祉への興味のあるものが高いとの報告がある。 ・佐賀大学、西九州大学双方とも、情報に関するデータサイエンスの分野の教育の充実を図っており、その分野への支援強化もまた佐賀県として意義深いと考える。 | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> <p>自県大学進学率の向上は、県立大学の設立だけで解決するわけではありませんが、その一助となるよう検討を進めていきます。</p> |
| 116 | <p>既存私立大学の公立化。全国的には、私立大学を市レベルの自治体が公立化する傾向がみられている。私立大学の一部の学部を、公立化することで、公立大設置の事実と私立大学の経営基盤強化を図るメリットが考えられる</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> <p>私立大学だけでなく、佐賀大学とも連携を取りながら、県内の高等教育機関の充実を図っていききたいと考えています。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 117 | <p>「県立大学基本構想（素案）」を見た場合に、どうしても建学に向けた思いをはじめとする大学の理想像が前面に押し出されている感が否めず、「ヒト（教員・学生問わず）」に対する思いや個別具体的な事項に対する方向性があまり示されていないことに違和感を覚えます。高等教育を受けることにより、様々な面から活力を見出すことができる人材が育成され、その活力が地元佐賀県に還元されることで佐賀県が活性化し、それが九州各県に、ひいては日本全体に良い波及効果を及ぼすような実効性の高い基本構想が望ましいと考えます。</p> <p>高等教育を受ける機会はすべての国民（県民）に平等に与えられ、進学を希望する者は皆、高等教育を受ける権利を有していることは言うまでもありません。国力を上げるためには何より教育が基本であり、その教育水準をいかに上げられるかが重要な視点であると思います。そのためにも、他県にはない佐賀県独自の地域性や県民性などを活かした特徴ある基本構想が必要であると考えます。中・長期的な視点から「人材育成」に対する県としての具体的な考え方、若者が佐賀県を魅力ある県として認識し、県立大学への進学はもちろんのこと、卒業後も地元の企業で働き続けたいと思えるような魅力ある地域づくり、企業の活性化に繋がるような立案に期待します。</p> <p>人生100年時代における生涯現役社会の実現に向けた取組みの一環として、県立大学の設置が実現し、世代を問わずすべての県民が将来に夢を思い描くことができるような佐賀県となり、その佐賀県から日本を変えたいという気概を示すことにも繋がれば幸いです。</p> | B | 生涯を通じ学びの機会を提供できる大学となるよう検討を進めていきます。 |
| 118 | <p>県立大学基本構想（素案）については賛成します。意見としては、大学を唐津市に置くことが有用ではないでしょうか？以下、その理由を述べます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のバランスの向上: 佐賀市や鳥栖市は佐賀県内での経済や教育の中心地としての役割を果たしています。一方、唐津市への新大学の誘致により、県内の地域間のバランスが向上し、全体の発展を促進することができます。 ・新しい学問の地としてのポテンシャル: 唐津市はその独自の文化や歴史を持つ地域であり、これらを活用した新しい学問の研究や教育が期待されます。佐賀市や鳥栖市とは異なる特色を持つ唐津市での大学設置は、多様な学問の発展を促進します。 ・地域資源の最大化: 唐津市は海岸線や自然環境、伝統文化などの豊かな資源を持っています。これらの資源を活用した教育プログラムや研究が行われることで、地域の魅力を最大限に引き出すことができます。 ・新たな経済圏の創出: 佐賀市や鳥栖市はすでに経済的な発展を遂げていますが、唐津市への新大学の誘致により、新たな経済圏が創出されることが期待されます。これにより、佐賀県全体の経済的な多様性と安定性が向上します。 ・地域の活性化と若者の定住: 唐津市への大学誘致は、地域の活性化と若者の定住を促進します。これにより、地域の将来的な発展と持続可能性が確保されることが期待されます。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 119 | <p>学部構想について。</p> <p>(情報経営学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム学科: IT技術とビジネス戦略の融合を学ぶ。データ解析、AI技術、システム開発などのカリキュラムを提供。 ・経営戦略学科: 経営の基本からデジタル時代の経営戦略までを網羅。マーケティング、経営戦略、起業家精神などの教育を行う。 <p>(地域産業学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋資源学科: 唐津市の海岸線を活用し、海洋資源の保護と利用に関する研究を行う。 ・伝統文化・観光学科: 唐津の伝統文化や観光資源を学び、地域資源を活用したビジネスモデルの開発を目指す。 <p>(先端技術学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボティクス学科: IT技術を活用したロボットやドローンの開発を学ぶ。 ・バイオテクノロジー学科: 唐津の自然環境を活用し、生物技術や環境技術の研究を行う。 <p>(地域連携学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域デザイン学科: 唐津市の都市計画や地域づくりに関する研究を行い、地域の持続可能な発展を目指す。 ・地域産業支援学科: 地域の中小企業や伝統産業と連携し、新しいビジネスモデルの開発や産業の革新を支援する。 <p>これらの学部・学科は、ITと経営的視点を中心に、唐津市の特色を最大限に活かした教育を提供することを目的としています。これにより、地域産業を担う次世代のリーダーを育成することができると考えられます。全国どこにもない、特色ある大学創設に期待しています。</p> | B | <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 120 | <p>佐賀県立大学の立地について色々構想はあるようですが、立地は絶対に佐賀市内が良いと思っています。佐賀市外に大学を設置しても、最低限の都市機能がない地域では、就職面、生活面において、県外からきた学生がそのまま佐賀に残ろうとは思って貰えないと考えてます。また、県内学生においても同様に佐賀市外の大学を出て、そこから佐賀市内(県内)ではなく、県外に就職先を求める傾向になるだろうと予測されます。佐賀県がより魅力的な県となっていくためには、まずは県庁所在地の活性化(魅力ある街)にしていく必要があると思っています。市内の立地については、長崎新幹線ルート of の今後にもよりますが、佐賀大学の現立地、佐賀市街地の現状も鑑みて、佐賀市北東部で極力佐賀駅に近いところが、学生を集める、魅力的な街作りの面でも望ましいと思います。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 121 | <p>学部は情報系等と合わせて、サブカルチャーに関連する様な学部もあって良いのではと思っています。各地にある公立大学との差別化と、土地も資源も少ない佐賀県を考えるとサブカルチャーの文化育成に力を入れた方がより魅力度がアップすると思います。仮に新幹線駅が新佐賀駅として大和インター近くに出来るのであれば、そこから佐賀アリーナを通過して現佐賀駅まで(可能であれば佐賀空港まで)、モノレールを引いて、その沿線付近に県立大学を設置するのも良いのではないのでしょうか。(勿論予算面とか難しいところもあるかと思いますが)</p> | B | <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 122 | <p>結論は、佐賀県立大学の設立に賛成です。素案及び座談会での説明を聞いての率直な感想は、佐賀に大学ができるというワクワク感が感じられませんでした。</p> <p>「少子化の中で学生を確保できるのか」、「財政不如意の中で負担は大丈夫なのか」といった懸念（逆風）に対してはデータを用いて一定の説得力はありました。しかし、その説得力がゆえに「人間力を生かした社会実装力」を備えた人材を育成できるのか懸念を抱かせることになりました。それは、説得が「マイナス」から「ゼロ」に引き上げるにとどまっているように私には感じられました。</p> <p>（外に世界を知らずに）佐賀で生まれ育ち、実家から通学（通学利便性等も設置場所の判断に入る）して、卒業し（、人手不足の県内企業に就職し）た人が、構想案にある（P6,7）人材に育つでしょうか。</p> <p>ウィンストン・チャーチルは「風が一番高く上がるのは、風に向かっていているときである。風に流されているときではない。」と書いています。「少子化」「財政問題」「逆風」を逆手にとって「風に向かって」高く舞い上がる風のような「ワクワク感」を与えてくれる構想が求められます。</p> | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 123 | <p>研修施設の整備を検討してください。佐賀県立大学ですから人材の受入れ・輩出以外に県下全域に効果が及ぶような仕掛けが必要だと思います。自宅通学者が多いからこそ学生同士の宿泊研修が「人間力を生かした社会実装力」の形成に役立つと思います。施設そのものが佐賀の産業を支えてきたことを感じられるのであることが重要と考えます。佐賀には100年を超えて経済を支えてきた企業が多くあります。そうした企業の社会貢献と連携することも可能ではないでしょうか。</p> | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 124 | <p>運営収支では、県費10億円となっていて、うち8億円を地方交付税で賄うことになっています。私たちは国税納税者でもありません。マネジメント部門の学科もあることであり、他の収入を例示すべきと考えます。例えば、</p> <p>①オンライン聴講費 1.2万円/年×1万人 1.2億円/年 ②寄附講座 1千万円/年×10社 1億円/年 ③その他 例：神山まるごと高専は11社から100億円の寄附を集めています。</p> | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 125 | <p>大学の設置場所は伊万里市と唐津市とし、学部の前半年次と後半年次で通学場所を替えるようにすること、と提案します。両市には現在大学がなく、若い人が数百人単位で生活するようになれば西北部地区活性化への大きな起爆剤になると期待します</p> | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 126 | <p>佐賀県立大学反対！。地方大学・私立大学の多くが赤字経営であり、募集停止・廃校となる大学もある。文科省も公立大学の新設を抑制している。佐賀県でも人口減少に伴い、18歳人口・大学進学者も減少してゆく。県立大学単体で黒字化することは不可能であり毎年赤字を出し続け、長期間に渡って県費の支出を続ける事態になる。佐賀県には既に佐賀空港やさがアリーナ等の赤字施設があり、将来世代への負担が増している。県立大学設置は将来世代への禍根となる。</p> | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 127 | <p>賃金が低い・長時間労働。佐賀県内の企業は給与水準が低く、長時間労働が解消できておらず、魅力ある企業に乏しい。卒業後の就職を考えると、県立大学へ入学を希望する生徒は少なく、卒業後に県外就職する学生が多くなる。働き方や給与面で魅力的な企業を育成し、県外に進学した学生に佐賀県で就職してもらうために、帰ってきてもらう仕組みをつくるべきである。</p> | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 128 | <p>経済効果は信用できない。試算は都合が良く算出されたもので信用できない。市町や県議員も将来世代に負担を押し付けるだけで無責任である。試算が外れた場合の責任の所在が曖昧で、誰一人責任を取らない事態に陥る。将来世代に対して不誠実である。</p> | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 129 | 学力問題。佐賀県の高校生でさえも、優秀な生徒のほとんどは県外へ進学している。県立大学が設立されても、その傾向は大きくは変わらない。県内への進学率が低いのは、四年制大学の数が少ないからでは無い。平均的な基礎学力を持った高校生であれば、佐賀大学や西九州大学に入学することは十分に可能である。優秀な生徒が、県外の高いレベルの大学を目指すのは当然のことである。ましてや県外の高校生が県立大学を選択肢として考える可能性はほぼ無い。県立大学に入学を希望する高校生は、基礎学力が不十分な生徒が多い。入学させたとしても、卒業までに企業が求める能力を身につけるレベルまでの指導は無理である。県立大学と企業との間の齟齬が生じる。 | C | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 130 | 魅力に乏しい。学生は勉学だけの生活は望まない。ときには遊びやレジャー・旅行なども楽しみたいと考える。佐賀県内には、学生にとって魅力のあるレジャー施設やショップ・商業施設がない。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 131 | 経営情報学部1学科で十分。すでに民間企業、大学でこの種の情報分析利用等はまん延しており、3周遅れの段階。人口減、進学率は上昇にはつながらない。一般の学生募集では能力の高い学生が応募しないと予想される。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 132 | ものづくり学部（生産工学部）の設置を。人間は有史以来物作りを基本に生きている。佐賀県に必要なものづくりは、農水産を除き非常に少ない。優秀な学生は県内外の企業に就職する。機械、エネルギー、宇宙に特化した学部が急務。範囲を絞り企業の育成に即活躍出来る人材を。 | B | ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 133 | 大学の名称、学生の入学選抜には工夫が必要。 | B | 「佐賀県立大学（仮称）」を基本に考えていきます。また、入試制度については専門家とともに検討していきます。 |
| 134 | 大学を設置する意義について。選択肢が増えることは良いことであり、設置することにより何らかのインパクトはあると思います。ただ設置すれば学生が来てくれるわけではなく、他大学と比較して選択されなければ学生は来てくれません。何を大学の魅力にするかが肝心です。設置の目的に地域産業を担う実践中核人材の育成とありますが、出口戦略がしっかりしていないと絵にかいたモチになってしまいます。後発である利点を生かして設置構想の段階から地元産業界の意見を聞き、求めている人材、大学に担ってもらいたい役割をはっきりさせ大学のカリキュラムポリシーに取り込んでいくことが重要と考えます。また、県立大学であることから県の地域産業振興政策とのマッチング、スタートアップを積極的に支援していくことも重要と考えます。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 135 | 設置する学部について。学部という枠はすぐに決められますが、実際に開校した後はその中身が大切になります。カリキュラムの作成、講師の選定、運営組織の構築等学生がこの大学に入学してよかったと思われるようにしなければなりません。学生の評価が次の入学者に繋がります。開校当初は予想しない問題がたくさん出てきます。その時に一番肝心なのは学生が不利益にならないことです。どのような学生に入学してほしいのか。入学後はどのような教育をするのか。その結果どのような出口に繋がるのか。この一貫性が大切です。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 136 | 大学の運営費について。大学の一番大きな収入は入学金と授業料収入です。これを基本として入学者数から収入がきまり、それによって支えられる講師数、職員数が決まります。運営交付金がなければ大学はやっていくことができませんが、それを運営の中心にするのは問題です。一度設置した大学は公共性を持ちます。経営が苦しいからと簡単にやめることはできません。学生、地域に対する責任があります。このようなことから綿密な構想が必要と考えます。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 137 | 県、産業界、大学と一緒に意見を言える場所が必要と考えます。一年に一回開催し当たり前の意見を言う場所ではなく、県が主導して意見交換ができる場所になる必要があると思います。 | B | 産業界等との連携の在り方については、引き続き検討していきます。 |
| 138 | 県立高校に付属のコースを作る構想もあるとおもいますが、まず高大連携から始めたらどうでしょうか。高校生が大学の授業を受けられるようにし、その分を高校の授業としてみとめる。大学入学後に単位を認める等いろいろな方法がありますが、一番大きいのは高校生が大学に興味を持ち、進学を選択肢として考えてもらえることです。また、大学を知ってもらうことにより今問題になっている入学後に大学と合わないからと退学する学生の数を減らすことにもつながります。 | B | どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。 |
| 139 | 聴講生として社会人を受け入れてはどうでしょうか。経験として身に着けたスキルに知識の裏づけをすることにより、より一層身に着けたスキルに自信を持つことができます。また新しい視点から仕事を見直すことができます。社会人が同じ空間にいることにより学生にも良い影響が出ると思います。 | B | リカレント教育の内容については、専門家とともに検討していきます。 |
| 140 | 設置の必要性・意義について。これまで2回の検討を経て実現しなかった県立大学の設置を、なぜ今設置する必要があるのか、知事公約だからという理由では県民は納得しない。県立大学が本当に必要なのか、県民の大きな問題意識はそこにある。大学を設置する意義について明確で納得いく説明を示すことが求められる。残念ながら本構想では明確で具体的な説明は示されていない。地域の活性化、教育力の強化のために公立大学が設置されることの妥当性について、積極的に示してほしい。 設置の必要性については、地元の国立大学との役割の違いについても説明が求められる。佐賀大学は地域創生・地域貢献を重点支援としてあげており、公立大学の多くが地域貢献としての存在意義を打ち出していることを踏まえると、存在の必要性だけでなく、あり方に付いての方向性や可能性にも踏み込んで示すことも必要である。公立大学に対しては地域への学生の定着を求める水準は高く、どのような目標に取り組むかが厳しく問われる。 設定の検討において歴史的経緯、佐賀県の教育・経済・産業・福祉・医療などの状況、世の中の動き等多面的多角的に分析した結果の提案であろう。ここでの分析データを示して設置の意義の説明がなされないと、構想への信頼性や妥当性が判断できない。何よりも、設置への強い思いや未来を見通しての佐賀県の将来像が情動的に示されているだけであり、佐賀県のことなのか全国の状況なのかわかりにくい。構想が終始一般論としての説明で終わっており、思いが伝わってこない。分析データに基づいて構想の理念や計画を示さないと、県民の期待、何より当事者となる子どもたちや保護者へのメッセージとならない。 | B | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 県立大学の設置の必要性について、分かりやすい説明に努めていきます。 |
| 141 | 県民の関心を高めるのが必要。まずもって、県立大学への県民や子どもたちの期待や関心はどうか、本当にあるのか。県民の関心が低い状態で県立大学を設置しても、果たして佐賀の教育を推進し地域貢献が期待できるのか疑問である。他県事例を見ると公立大学は地域の強い要請に応じて設置されることが重要である。佐賀県民からの必要性や期待の声を増やし、当事者となる子どもや保護者が可能性や願いを抱けるように、佐賀の未来をどのように描きたいのか、県の知の拠点としての役割をどのように担うのか、子どもら高齢者まで県民全てに伝わるメッセージとなるように丁寧に示してほしい。それが本構想の役割である。 | B | 県立大学の設置の必要性について、分かりやすい説明に努めていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 142 | 進学における格差・ジェンダー不平等解決への期待。公立大学の設置は、地方から若者流出が深刻な問題となったことから、地方の進学者の流出を食い止め、地元進学を確保し、都市・地方間の不平等・不公平を是正する機会を増やす等の意義を背景として増加してきた。佐賀県の進学率が全国平均より大きく落ちている要因の一つに、地元大学の選択肢が少なく、県外進学による費用の負担がある。当事者や保護者にとって公立大学設置により低廉な費用で大学進学を機会を得ることが可能となる。中でも問題なのは、佐賀は進学においてもジェンダー不平等が際立っている点である。全国の進学率は女子51・7%、男子58・1%、平均54.9%に対して、佐賀県は女子36.9%、男子45.1%、平均41.1%である。(2021年学校基本調査)大学が多数立地する東京の74・6%と比べて2倍の開きが見られる。ちなみに佐賀県は全国ワースト3位である。この格差は、所得格差の問題や性別役割分業に基づいた教育期待への性差がまだに残っており、性別による進学への価値観の違いによるものであり、家計が苦しい地方の女子が最も不利な立場にある事を現している。自宅から通える大学があることで選択肢が増え、女子学生がもっている能力を広げる可能性が増える。 | D | 男女問わず県立大学への進学を希望してもらいたいと考えています。 |
| 143 | 公立大学の運営：公立大学法人により運営とは、どういうことかの説明が必要、これでは県民に分からない。ちなみに公立大学を設置する法人は67法人、公立大学法人が設置する大学は72大学。(平成28年) | B | 今後、公立大学法人による運営についても説明していきます。 |
| 144 | 財源・経営：大学経営が安定しているとの説明であるが、厳しい地方財政を背景として、教育・研究環境充実のための資金や人材の確保は年々厳しさを増しており、中長期的な改革の展望を描くことが難しくなっているのが現状である。公立大学の財源は、設置自治体が負担する財源(設置者負担額)と、自主財源に区分される。 各公立大学の自主財源の占める割合は多様である。学部の種類に応じて必要教員数は異なり、医科大学、看護医療福祉系大学、理工系大学は自主財源率が低く、社会科学系の大学は自主財源率が高い。設置者負担額の総額に対して、基準財政需要額の総計は90%程度に及んでいるが、設置自治体ごとに見ればその状況は相当に異なっている。佐賀県の場合の財源の確保については、どのような見通しをもっているのか、説明がほしいところである。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 145 | 学生の経済状況：日本学生支援機構平成26年度学生生活調査によれば、国公立大学間の比較において、公立大学の家庭の経済状況が最も厳しい状況にある。公立大学生の家庭の経済状況は、年間平均収入額が国立、私立大学の家庭と比較して100万円以上低くなっているほか、年間収入の分布からも国立大学及び私立大学と比較して所得が低い状況である。また、奨学金の受給者の割合は、国立大学生の49.4%、私立大学生の51.4%と比較して公立大学生は56.6%と最も高い。授業料減免については、各公立大学における授業料減免率は必ずしも高いとは言えず、金額ベースで平均として4.4%となっている。公立大学の授業料減免の方針は設置自治体の財政措置に頼らざるを得ないが学生の経済状況に対し、適切な措置が講じられているか、国立大学の状況検証が必要がある。佐賀県の場合はどのような状況になっているのか。 | B | 佐賀大学の公表資料によると奨学金受給者の割合は約55% (2023.3月現在) となっています。 経済的負担の軽減については引き続き検討していきます。 |
| 146 | 入学者の状況：公立大学設置目的として大学進学時の地元残留が注目される。残留率の高い都道府県は、愛知県(71.4%)、北海道(67.1%)、東京都(65.7%)がある。一方、残留率が低い都道府県は和歌山県(11.2%)、鳥取県(13.3%)、佐賀県(13.6%)である。進学者の地元残留に高い貢献を示している地区は、高知県、山口県、岩手県、青森県で、高知県、兵庫県、広島県では複数の公立大学が設置されていることもあり、国立大学と比較して地元残留率に対する貢献度が高くなっている。同一都道府県からの学生の割合、地元入学率は公立大学全体では46.3%となっており、国立大学の34.7%と比して高いが、地元入学率の状況は10%台から90%台と多様である。佐賀県の場合はどうなるのか。 | B | 現時点においては、自県進学率や地元入学率の見通しを明確に持っているわけではありません。 入試制度については専門家とともに検討していきます。 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 147 | <p>公立大学の機能：公立大学の設置においては、佐賀県の分野・産業の人材育成の需要の状況を十分に考慮し、佐賀大学との役割分担の在り方や設置者の枠を超えた連携・統合等の可能性などを十分に検討して、佐賀県立大学の将来構想の検討にあたって頂きたい。また、県立大学に関する政策は、地方創生等の国の流れや、地方自治体の政策とどのように合流させられるのかが問われる。構想の検討において、理論的な研究やデータに基づいた実証的な研究に関する取り組みが必要であり、どのような機能を使い、どのような課題に対して貢献を行うのかについて、学識者や県民、産業界、教育界、当事者らとの議論をしっかりと持ち、検討を深めてほしい。前提論やべき論で、検討の過程が見えない提案とならないようにする事が求められる。</p> | B | <p>県内の高等教育機関とのそれぞれの強みを生かした連携について検討を進めていきます。</p> |
| 148 | <p>人材育成・イメージ・学部構想：本構想では、社会に必要とされる人材として、「世の中の動きを見ながら、今と将来とを鳥瞰的に考えられる人材を育成する」。そのために「実務に即したスキルや情報技術に加え、倫理観やコミュニケーション能力、マネジメント能力の向上も促進します。どのような時代になろうとも、変化に対応し、学生が社会で問題解決に取り組み、個々の成長と地域社会への貢献につながる人間力を培います。」と説明している。</p> <p>なぜ、情報技術や経営力になるのか、このことの根拠や背景が何も説明されておらず、人格の発達と地方創生・地域活性化のための能力育成との関係がわからない。一般論的なのでわかりにくい。</p> <p>ちなみに、公立大学の工学系は近年3倍以上に増えている。情報系に特化した学部では、公立はこだて未来大学システム情報科学部（2000）や長崎県立大学情報システム学部（2016）等がある。独自の教育を行い話題性が高いはこだて未来大学だが、一方で、人材を育成しても、函館には就職先となる情報系の企業が少ないことから、若者定着に結びつきにくい。入学生は6割強が北海道出身者だが、卒業生全体の6割強が首都圏へと流出している。産業構造が変化していく中で、地域に根付き自立して生活していくためにはもっと柔軟な対策が求められる。</p> <p>予測不可能なこれからの社会において、どのような能力を育む事が必要なのかかわからない。本構想では目指す人事に必要な能力として「社会実装力」（人間力）、それを支える力「技術力」と「ビジネス力」を示している。</p> <p>「鳥瞰的な視点を持ち、自ら考え、実践する」能力と「社会実装力」は同じことを表現しているのではないかと、時代が変化しようとならざるを得ない能力である。技術力やビジネス力はあくまでも手段、道具となるものであり絶えず変化するものである。この3つは同列で示される能力ではない（イメージ図が？・・）。実装力が、IT技能と経営知識で十分に機能するのは疑問である。実学重視で示されているが、人育ては明治の佐賀の県人たちが伝えたように、人間性に関わるものであり、それが想像力を育む。佐賀県人が佐賀を誇りに思えない、佐賀への劣等意識や自己肯定感の低さ、自信のなさ、変化への気後れなど根本になる人間観と想像し創造していく能力はどのようにしたらはぐくめるのか、「さがのまち・ひと・しごと創世」の視点からもっと深く広く検討をしてほしい。大学が始動し学生たちの活躍が期待されるまでには少なくとも10年以上先のこととなる。数十年後県立大学での教育・研究の成果を通して、佐賀がどうなっているのか、ほしいのかを思い描き、はぐくむ能力や方向性について十分に検討してほしい。</p> <p>学生が大学や地域においてどんな物語を紡いだかが大学のアイデンティティ（存在価値）となり、さらには出会いや経験の物語が共有されると、卒業後の大学や地域に対する思いにつながる。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---------------------------------------|
| 149 | <p>研究環境：「質の高い研究」とはどのようなことで、どうするのか。</p> <p>どのような機能を使い、県内高等教育機関が持っている知的・人的資源を地域や社会の課題解決に活用するのか。実践的な教育や研究を中心としているようだが、学生が地域への理解を深めることが県内への定着の契機となると期待される。県内高等教育機関と地域の企業や研究機関、市町村などと連携して学びの場の提供や地域づくりも重要となる。必要となる学術分野のネットワークの形、行政との連携のあり方、県立大学が知の拠点として地域の諸課題の解決、基盤強化に貢献するとともに、それを支える人材育成に確かな役割を果たすよう取り組む環境作りが求められる。</p> | B | <p>研究環境のあり方については、専門家とともに検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|------------------------------|---|---------------------------------|-------|---------|-----------|--------------------------|-------------------------|----------|-----------------|-------------------------|--------------------|-------------------|-------------|-----------------|-------------|-------------------|------------------------|--------------------------|---------------------------------|------------|-----------------------|------------------------------|-----------------|------------------|---|---|
| 150 | <p>地域貢献の機能の検討を。佐賀県立大学の地域貢献機能を考える上で、次のような視点が必要と考える。一つは、「地域にある既存の価値を守るのか」、それとも「新たに価値をつくり出すのか」、佐賀のサステイナブルか佐賀をクリエイトか、もう一つは、「地域貢献が地域からの要請をきっかけとするのか」、それとも「大学からの提案をきっかけとするのか」。かつては、教育を通じて学生を輩出することが大学の第一使命であり、研究成果を社会に還元することが社会貢献となった。近年、市民の生涯学習を支援する活動、産業を発展させるための研究活動、学生のボランティア活動や地域との連携で行われる教育活動、これらすべてが“地域貢献”として、主要な活動となっている。</p> <p>これらの機能について検討し、地域貢献の機能がもたらす価値、必要となる学術分野のネットワーク、行政との連携のあり方等について、地域から求められる人材像、人材のスキルやコンピテンシーなどについての検討を得た提案となるべきだと考える。地域貢献機能として全国ほとんどの都道府県に48の公立大学の看護系の課程が設置され、学部教育だけでなく大学院教育においてもその存在感を高めている。学部設置傾向を見ると、看護・保健医療・福祉系の学部が最も多い。佐賀県立大学の構想には看護・医療・福祉系は含まれていない。なぜか？</p> <p>佐賀の特産である農業や水産業、窯業、工芸品などの財産を発展させる持続可能な佐賀の未来としないのはなぜか？公立大学の地域貢献の機能としては次があげられる。（「時代をLEADする公立大学の多様な機能」をもとに作成）</p> <table border="1" data-bbox="174 842 900 1220"> <thead> <tr> <th>類型</th> <th>分野</th> <th>地域貢献機能</th> <th>学生の定着</th> <th>コンピテンシー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域のいのちを守る</td> <td>医歯薬系 看護医療系 福祉系、栄養系</td> <td>地域の命を守るためのセーフティネットを強くする</td> <td>就職先の魅力次第</td> <td>高い倫理性が求められる 人間力</td> </tr> <tr> <td>地域の可能性を開発する (佐賀県立大学)</td> <td>情報系 理工学系 国際系</td> <td>新たな価値を創造し、地域を開発する</td> <td>地元就職は非常に少ない</td> <td>専門性が強く求められる 創造性</td> </tr> <tr> <td>地域の財産を発展させる</td> <td>芸術系 人文系 農学系</td> <td>地域が強みとする財産・価値を育て、飛躍させる</td> <td>専門家として極めて付加価値の高い学生を輩出、就職</td> <td>専門的なコンピテンシーを普遍的なコンピテンシーにつなげる発想力</td> </tr> <tr> <td>地域の価値をつなげる</td> <td>地域政策系 環境系 社会科学系</td> <td>地域内、地域間をつなぎ、地方創生、持続可能な社会をつくる</td> <td>全国のすべての地域に人材を還元</td> <td>コミュニケーション能力 企画能力</td> </tr> </tbody> </table> <p>学生をただ地域内に留めるのではなく、地方で学生を育て、地域に送り出す仕組みを構築することも求められる。何より、当事者となる学生ファースト、地域ファーストの考えを十分に踏まえた検討を今後とも期待したい。</p> <p>佐賀県立大学は情報系学部設置を目指しているにもかかわらず、この基本構想はアナグロ的で、少しもわくわくしてこない。県民が、当事者がわくわくするような、期待をもてるような提案の仕方、内容、情報発信行ってほしいと切望する。</p> | 類型 | 分野 | 地域貢献機能 | 学生の定着 | コンピテンシー | 地域のいのちを守る | 医歯薬系 看護医療系 福祉系、栄養系 | 地域の命を守るためのセーフティネットを強くする | 就職先の魅力次第 | 高い倫理性が求められる 人間力 | 地域の可能性を開発する (佐賀県立大学) | 情報系 理工学系 国際系 | 新たな価値を創造し、地域を開発する | 地元就職は非常に少ない | 専門性が強く求められる 創造性 | 地域の財産を発展させる | 芸術系 人文系 農学系 | 地域が強みとする財産・価値を育て、飛躍させる | 専門家として極めて付加価値の高い学生を輩出、就職 | 専門的なコンピテンシーを普遍的なコンピテンシーにつなげる発想力 | 地域の価値をつなげる | 地域政策系 環境系 社会科学系 | 地域内、地域間をつなぎ、地方創生、持続可能な社会をつくる | 全国のすべての地域に人材を還元 | コミュニケーション能力 企画能力 | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 類型 | 分野 | 地域貢献機能 | 学生の定着 | コンピテンシー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域のいのちを守る | 医歯薬系 看護医療系 福祉系、栄養系 | 地域の命を守るためのセーフティネットを強くする | 就職先の魅力次第 | 高い倫理性が求められる 人間力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域の可能性を開発する (佐賀県立大学) | 情報系 理工学系 国際系 | 新たな価値を創造し、地域を開発する | 地元就職は非常に少ない | 専門性が強く求められる 創造性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域の財産を発展させる | 芸術系 人文系 農学系 | 地域が強みとする財産・価値を育て、飛躍させる | 専門家として極めて付加価値の高い学生を輩出、就職 | 専門的なコンピテンシーを普遍的なコンピテンシーにつなげる発想力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域の価値をつなげる | 地域政策系 環境系 社会科学系 | 地域内、地域間をつなぎ、地方創生、持続可能な社会をつくる | 全国のすべての地域に人材を還元 | コミュニケーション能力 企画能力 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 151 | <p>今回、佐賀県で令和10年度以降に開設する四年制大学(案)の県立大学基本構想のコンセプトに、パイロット事業として、全国の連携自治体と共にeラーニング(通信制・修士課程)を活用した社会人を対象学生とする新たな学びの場、二年制『(仮称・佐賀弘道館)公立地域連携専門職大学院大学』が必要であると考えます。ご検討、宜しくお願い致します。29</p> | D | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 152 | <p>県立大学の基本構想の検討に当たって、「他の大学でなく、この大学で学びたい、夢を実現したい」と思ってもらえるような大学とはどういったものか。という観点も必要。</p> <p>→ユーザーニーズ（学生側の視点）に係る入口としての大学像。</p> <p>→企業ニーズ（求人側の視点）に係る出口としての産業集積。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> |
| 153 | <p>学部：理系でもソフトウェア系を目指すなら、セキュリティ等基盤技術の研究も重要。研究成果として、論文発表や知的所有権の登録も重要。</p> <p>ただ技術を学ぶだけではなく、研究要素がないと大学の意味がない。</p> <p>→どれだけの魅力を出せるかが肝要。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 154 | <p>場所：将来に向けた県勢の均衡ある発展を見据え、地理的かつ地域産業の特性等も考慮すること。</p> <p>通学利便性の確保の対策については、学生寄宿舍の設置など地元自治体と協議する。</p> <p>→ 候補地として 伊万里市 を推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨海部を中心に造船業、木材加工業、I C 関連企業などの製造業が集積 ・伊万里港は、国の重点港湾及び日本海側拠点港に選定 ・高速道路体系の整備が進み、福岡都市圏まで約 1 時間でのアクセス ・豊かな自然環境と温暖な気候により、高品質な伊万里牛や伊万里梨、ブドウなどが生産 ・自然と産業が調和したまちづくり ・肥前窯業圏の一翼を担うやきもの産地 ・市と産業界の連携による「伊万里市高等教育機関誘致推進協議会」設立 <p>(他大学のキャンパス位置)</p> <p>佐賀大学 佐賀市 有田町</p> <p>西九州大学 佐賀市 神埼町 小城町</p> <p>武雄アジア大学(仮) (武雄市)</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 155 | <p>大学院：先進的な研究や共同研究の実施、県立大学出身の指導者育成のためにも必要。論文発表や知的所有権の確保にも寄与。</p> <p>→大学院がなければ、優秀な学生は、他（県）の大学院へ出て行かざるをえない。</p> <p>(設置スケジュール案)</p> <p>修士課程 県立大学設置から4年後</p> <p>博士課程 県立大学設置から6年後</p> | A | <p>大学院については、開学 5 年目を目途に設置を検討します。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 158 | <p>現実問題として、理想・構想・存在意義(役割・機能)といった議論やその表明よりも、社会から着目されるのは(取り上げられるのは)、学生募集の結果(数値)である。開学1年目、2年目の学生募集の結果(志願者数、倍率、入学者数など)である。</p> <p>以下のニュース参照。 「広島県立観啓大、開学3年目で初の定員割れ 入学辞退が見込み上回る 留学生数も目標に届かず 2023/6/6」</p> <p>したがって、充分すぎるほどの準備と対策が必要とされる。早い段階(2024年度または2025年度)から、チームを組織(編成)して、中学生対策(保護者)、高校生対策(保護者・高校教員)に対し、働きかけることが求められる。</p> <p>大学4年間の魅力ある教育内容、学生が満足するような学生生活、就職支援の取組や就職先の明確化などについて、将来の受験予定者とその保護者、高等学校教員に対して提示することである。</p> | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 159 | <p>今後、文部科学省への申請までに必要とされる事項と、認可されてから学年進行に応じて取り組むべき事項を分けて対処することが大事である。</p> <p>教職協働の必要性、女性教員・女性職員の割合、大学院修士課程の設置のための教員確保、他大学との差別化、教職課程の設置(情報、商業、社会など)、学部学科構成(学士号)、校舎の構成(動線)、県立大学カラー(色)、などについては、チームを編成してから取り組むべき課題である。</p> | B | 専門家チームとともに、様々な課題への対応について整理していきます。 |
| 160 | <p>県立大学及び大学院の設置に大賛成です。県内の大学生を増やすことは、佐賀県と佐賀県民にとって大きなメリットです。佐賀県に多くの若者がいて、若者たちが佐賀県で行動することは、県の活性化に繋がります。その恩恵は子や孫のいる世帯に限ったことではありません。もちろん、県内大学進学、しかも国公立大学の選択肢が2つに増えるのは、高校生や保護者にも嬉しいことです。社会人の学び直しの機会も増加します。同等人口の他県との比較で出た大学の数には、愕然としました。自然豊かな(田舎と呼ばれる)佐賀は、佐賀のままであってよいと思っています。しかし、学ぶ機会や学校の選択肢が少ないのは別問題です。佐賀で学べるのだ！と胸張って言いたいです。</p> <p>今後は、全国的な女子の大学進学率上昇に伴って、自県進学率も増加していき、佐賀県に明るさが期待されます。県立大学の設置を推し進めてくださり、県民の一人として心より感謝申し上げます。</p> | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 161 | <p>「高等学校に設置する県立大学附属のコース」について。佐賀市内の高校であれば、佐賀西高校か致遠館高校に設置を望みます。その他の高校に設置した場合、この2校からの志望者は非常に少なくなると考えられます。一般的に、中、下層校から上層校への進学は躊躇いませんが、その逆は二の足を踏みます。(実業高校を含む)県内全ての高校から佐賀県立大学へ、選び抜かれた生徒が合格するイメージは、県内外に向けても大切だと思います。</p> <p>大学の偏差値を重視するのはあまりよくありませんが、偏差値が公表される以上、合格者のターゲットを予め考える必要はあると思います。また、県立佐賀大学と国立佐賀大学は互いに高め合う立場であるべきですし、例えば分かりやすく言うと偏差値的に国立佐賀大学の下を意識することもなく、なんなら国立大学の上を行くくらいの県立大学であってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>附属コースがどの高校なのかによって、県立大学の目指すベクトルの向きが決まるように感じています。</p> | B | どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 162 | <p>「場所」について。県内どこからでも比較的通学しやすいことを考えると、JR久保田駅北側が良いのではないかと考えます。鹿島方面から、武雄方面から、神埼鳥栖佐賀方面から、唐津方面からの路線が集結している駅です。</p> <p>そこで、唐津方面から通学しやすいように、唐津線に快速電車のサービスを加えれば、現在1時間ほど掛かる唐津久保田佐賀間が通学圏内になります。</p> <p>(唐津くんちと佐賀バルーン開催中にもメリットです。)(佐賀⇄唐津の電車での往来がスムーズになれば通勤通学も可能になり、県内の活性化をもたらすのではないのでしょうか。現存して使えるものを工夫して、便利にしていきたい。本数増加や快速、菜の花の季節列車などの工夫で唐津線の魅力や利便性を先行して高めれば、佐賀⇄唐津の県内外の利用客はもっと増えると思うのですが。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 163 | <p>開校に向けてまだまだ長い道のりですが、時折、進捗状況を公開していただければ幸いです。</p> | B | <p>今後も県立大学の検討状況については、わかりやすく伝えていく方策を考えていきます。</p> |
| | <p>80万人以下になった人口減少の佐賀県に、若者を定着させる一つの政策として県立大学の設置を支持します。人口流失、少子化は産業界や公務職場を問わず、人員不足となっており、佐賀の大きな課題です。しかし、大学を設置するだけでは、目的は達成しません。大学生活と卒業後の進路について、しっかり継続して支援することが必要です。</p> <p>現在、多くの大学で、学生が定員割れといわれています。県立といえども実績のない新設地方大学を希望する若者は多くはないと思います。九州最後の県立大学として、スタートから定員割れでマスコミに注目されたりすると、ますます希望者はいなくなるでしょう。学生数の確保と、優秀な学生の確保も必要です。したがって、できるだけ多くの佐賀の若者が希望するような政策が必要です。また、他県での思い切った政策を参考にすることも必要です。</p> <p>まず、昨年及び今年の佐賀県人事委員会の民間調査では、佐賀県の民間給与が九州最低となっています。教育費の家計負担は大きいので、県内学生の確保については、兵庫県等が次年度から導入する県立大学の入学金(県民約28万円)・授業料(年額約54万円)の無償化を、佐賀県立大学にも導入すべきです。兵庫県は学生の奨学金返済の経済的負担が、卒業後の結婚や出産といった将来計画に影響するとして、支援を決めています。条件として、一定期間以上県内に在住していることなどとしています。</p> <p>佐賀県として無償化の条件は、生徒が高校卒業までに連続3年間以上佐賀県内に在住することと、大学卒業後に県内事業所及び県内自治体へ就職することがいいでしょう。また、現在、県立高校が全国から生徒を募集しているので、その県外生徒が卒業までに連続3年間以上佐賀県内に在住すれば、県立大学無償化の対象とすることで、県立高校の生徒不足対策と県立大学学生確保対策にもなります。</p> <p>しかし、県立大学学生確保対策等として、県立大学付属高校は設置しないでください。</p> <p>この無償化の効果は、経済的に大学進学のできない生徒に県立大への進学の道を開くことと、希望者が多くなることで大学定員割れ解消及び優秀な学生の確保につながります。国立大学への進学でも、経済的負担は大きいので、入学金と授業料が無償であれば、国立大学希望者が佐賀県立大学に希望することも考えられます。このように、無償化は、県立大学の評価を高めることにもな</p> | | <p>経済的負担の軽減については引き続き検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 164 | <p>ります。また、県内事業所の卒業生確保につながります。くわえて、無償化により、奨学金を利用しない場合、卒業後の結婚や出産といった将来計画への影響をおさえる効果があります。</p> <p>大学在学中のからの支援として、県内事業所での体験・研修・実習の機会を作りミスマッチング防止、学生への県内事業所の情報提供・説明会、在学中の各種資格取得支援が必要と思います。このように、大学生生活を支援することは、学生の意欲を高め、県立大学の評価を高めることにもなります。</p> <p>大学院進学については佐賀大学大学院と協定し、県立大学が推薦する学生を100%受け入れる制度を整備することが必要です。大学院生になっても佐賀で生活が続けられるようになります。もし、佐賀県立大学に大学院が設置されれば、学部で無償化の対象だった学生は大学院でも無償化を継続すべきです。</p> <p>無償化の財源の一部は、広く県内事業主や産業界からの支援、ふるさと納税及び一般からの寄付の活用が考えられます。</p> <p>県立大学誘致には、佐賀市、唐津市、多久市、伊万里市、鹿島市、小城市、神崎市、上峰町、玄海町、江北町、白石町の11自治体が表明しているようですが、まず優先したいのは全県的に通学ができることです。これは、学生の確保上必要と思います。無償化しても、賃貸物件を利用することになれば、奨学金を頼ることになり、無償化の効果が弱くなります。</p> <p>次には、安全が確保され地盤沈下・浸水や自然災害が少なく、経済的負担が少なく通学が便利なJR長崎線・佐世保線沿いで、駅から徒歩で通学できるところが優先します。現時点では、伊賀屋駅周辺が広く用地を確保できそうに思います。また、全国的に路線バスが廃止されていて、バス通学は避ける方がいいと思います。</p> <p>ほかには、水害のこともあります。JR大町駅北側の、日立金属佐賀工場跡地と元大町町立病院跡地の活用はどうでしょうか。大学の敷地としては少し狭いように思いますが、JR通学優先としての候補地と思います。</p> <p>これまでの佐賀県の行政運営は、財政が厳しいとか、予算が無いなど、『貧乏を売りにした政策』が今でも横行しているように思います。</p> <p>県立大学については、『貧乏を売りにした政策』ではなく、『異次元の若者政策』として、県内出身者には制限をしないで入学金・授業料の無償化を実現してください。日本は国際人権規約の締約国です。無償化は国際人権規約で規定されています。現時点での要望ですが、是非実現してください。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 165 | <p>同じ県内の佐賀大学にも同様の経営学を扱う学部学科がある。隣県である長崎県立大学でも同様の学部学科が存在しており、同様の学部展開ではあえて新設された学校を選ぶ人は少なく、すでに実績のある学校を選択し、学生が集まらない可能性が考えられる。</p> <p>立地やどのような教員を有するかにもよるが近隣大学との競争で勝てない可能性が高いと考える。</p> <p>また、優秀な教員確保が課題と考える。</p> <p>学部構成は再考が必要と考える。佐賀県立大学でなければ学べないような特徴的な学部設定を期待する。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 166 | <p>県立大学を佐賀県に開学する構想については賛成。理由は以下のとおり。</p> <p>少子化により大学経営は厳しい状況にある。しかしながら佐賀県における若年者人口は全国に比して多い。その一方で、高等教育機関が少ないため、高等教育機関への進学を契機に佐賀を離れ、そのまま戻らない方が多い、又は戻るにしても定年後になってからということが多い。</p> <p>佐賀県が将来も豊かで住みやすい県になるには、若者が佐賀県に住みたい、残りたいと思うことが重要。税金収入等も踏まえると、働き盛りの年代（18～60歳）が佐賀にいてくれないといけない。この層の人口が増えない限りは佐賀県の発展は厳しい。この層の人口流出の原因の一つとして高等教育機関への進学があるのはデータ上明白であることから、県立大学設置により一定の歯止めをかける可能性はあると考える。</p> <p>さらに佐賀県内企業は、他県と比べ労働生産性が低いというデータがあることから、この解決という観点から、県立大学で学ぶ主体を「経営とITの融合」に置くことは意義があると考える。</p> | A | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> |
| 167 | <p>県立大学設置と両輪で、県内企業の振興（県内企業の実力/魅力度UP、大企業誘致、ベンチャー企業創出等）が不可欠。高等教育機関進学に係る人口流出を県立大学設置で一定抑えられても、卒業後の受け皿となる県内企業が無ければ結局現役層の人口は流出する。（さらに言えば、高卒就職人材も県内受け皿が少なく県外流出顕著）</p> <p>（大学を卒業する学生の受け皿となる県内企業のイメージを上げ、労働環境や賃金環境も良くしていき、若者に佐賀県企業に就職して佐賀県に居続けようと思ってもらうには、県内（中小）企業支援が不可欠）県立大学の使命として、県内企業の振興も担うべき。そのための産学連携機能強化は必須と考える。本機能を強化する上でも体制を早めに整える必要性があると考える（県立大学における産学連携/地域連携機能は立ち上げ時点で強化しておくべき）。</p> <p>三重大学に地域イノベーション学研究科という学科がある。三重県地域の企業経営者がリカレント教育を行う機能を有しており、またその活動を経て三重大学と県内企業との連携強化と県内産業振興に寄与しており、参考になる活動と考える。</p> | B | <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> <p>引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。</p> <p>具体的な産学連携の在り方については、今後検討していきます。</p> |
| 168 | <p>県内高校生やその保護者に、県立大学が出来るなら県内に残りたいか？等のアンケートを実施し、データを取ることは重要と考えます。</p> | B | <p>設置認可申請にあたり、県立大学への受験希望調査等を行う予定です。</p> |
| 169 | <p>反対します。リアルな場所で学ぶ時代ではない。現代は、インターネットが普及し、ユーチューブなどの教育に係るコンテンツも充実する、コロナ禍を経験してリモートでの教育ノウハウも蓄積されつつある中で、リアルな校舎・対面での教育の必要性が薄れる時代である。そんな中、県費で大学（箱もの）を作ることに大きな違和感を覚える。リアルな教育の場が必要な場合もあるかも知れないが、それを県が作る必要はない。武雄や佐賀で新しい大学や学部の設置が計画されているが、県はこれら民間の取組を後押しすることに力を注ぐべき。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 170 | インターネットが普及し、情報は瞬時に世界を駆け回る、交通網も整備され、人もグローバルに活躍する時代。そんな時代に県立大学を設置して佐賀県に若い世代を留めようとするのが全くの時代錯誤だと考える。大学進学の見込みは、海外も含めて多岐に渡っている。若い世代は、佐賀県内に留まるよりも、外に出て大いに学び、世界で活躍するような人財となることが望まれる。その土台を作ることこそ、佐賀県が行うべきことだと考える。そのために、佐賀県としてグローバル教育・情報教育などを推進して素晴らしい高校生を育成することが大切。（数年前までICT教育先進県であったのに、どうなってしまったのでしょうか？）もちろん、佐賀県にも佐賀大学や西九州大学、新設される民間の大学もあるため、それらの大学をバックアップすることで地元に残って学びたいというニーズに応えることはできる。 | D | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 他大学とも連携を取りながら、県内の高等教育機関の充実を図っていききたいと考えています。 |
| 171 | 佐賀県の産業・企業を活性化することに注力すべき。 県立大学構想に「県立大学がないことと、大学進学率が低いことが無関係ではない」とある。確かに無関係でないかも知れないし、それが一つの理由かもしれない。しかし、それ以外の理由もあると考えられる。例えば、高校生の学力の低さ、個々の家計の所得の低さ。佐賀県として行うべきは、高校教育を充実させて優秀な人財を輩出するとともに、そんな人財が佐賀県に戻って、活躍できるような環境（産業・企業の育成、誘致等）を整えることだと考える。 県立大学を作ったところで、佐賀県に活躍できる場がなければ、大学卒業と同時に佐賀県を出ていくことになる。県立大学を作るよりも、佐賀県の産業・企業を活性化することこそ佐賀県が行うべきこと。 そのためには、西九州新幹線の全線開通を早期に実現することも必要であると考えます。フリーゲージトレインなど過去の経緯や地元負担の問題があることは認識しているが、佐賀県の産業・企業の活性化、ひいては若い世代の佐賀県定着のためには、一刻も早く実現して欲しい。 | B | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 172 | 県立大学の設置は、賛成から反対まで様々な意見があって然るべきだと考えますが、私自身は賛成です。他県と比較して、県内大学の数が少ない状況が長年続き、学びの機会に恵まれていない現状は、若い世代を中心に県民にとって多くの機会損失を招いており、看過するのではなく、対策を講じる必要があると思います。そのため、今回、県立大学設置の検討が進められているのは、大変喜ばしいことだと思っています。（過去を悔いても仕方がないですが、過去に設置の検討がなされながらも、設置に至らなかったことは非常に残念です。私が学生の頃にあれば良かったのにも思います。） | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 173 | 基本構想素案の中にありますが、「実践的なカリキュラム」や「企業との連携した取り組み」は、社会で活躍するための知識や技術・考え方を身につけるために非常に重要な教育であると考えます。県立大学でどのような学びを提供するか検討される際には、重視していただきたいと考えます。 | A | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 174 | 「実践的なカリキュラム」や「企業との連携した取り組み」は、大学のソフト面に大きく作用する部分でありますので、設置場所を考える際には、そのような教育を提供できるよう、特に県内企業との連携のし易さに重きを置いて検討していただければと思います。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していききたいと考えています。 |
| 175 | 事業手法について、PPP・PFI手法のご検討をお願いいたします。 場所選定や事業手法等は今後の検討になると思いますが、ぜひ、事業手法選定の際にご参考にしてくださいと幸いです。 | B | 事業の手法については今後検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 176 | <p>18歳人口が減少の一途をたどり、大学全入時代となっている現在、私立大学などの多くが定員割れとなり、文科省は大学の整理統合をすすめようとしている。この状況のなか、なぜ県立大学を設置する必要があるのか？はなはだ疑問です。定員を埋めるだけの自信はおありですか？選ばれる大学となる自信はあるんですか？と聞きたい。</p> <p>佐賀県に県立大学がないのは恥ずかしいといった見栄だけで設置するのなら、やめてほしい。定員割れなどの場合の赤字は県民の税金で穴埋めするのでしょうか。</p> | C | <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 177 | <p>なんとしてでも大学設置したいなら要望したい点があります。</p> <p>佐賀県の経済、産業界の発展に貢献する。そういったより直結した分野がいいと思います。例えば、農業や窯業などこれから確実に後継者がいなくなる分野、特に農業をする人がいなくなれば、佐賀平野が荒地か米軍基地になってしまうことを心配しています。マネジメント分野や情報分野などは、カッコいいがはたして欲しい人材といえるかどうか疑問に感じます。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 178 | <p>社会人の学び直しの受け入れ。日本の大学のほとんどは、18歳の若者しか対象にしていません。これは、本来の大学の在り方ではないと思います。社会人が大学に行って、学び直しができるような大学にしてほしい。</p> | A | <p>リカレント教育も進めていきます。</p> |
| 179 | <p>県立大学の開学に賛成します。私は、経営大学院（ビジネススクール）を卒業し、現在、仕事の傍ら県外の公立大学で非常勤講師をしています。経験を通して感じたこと、あるいは、日本の大学や大学院の抱える課題を踏まえて新しい大学のカリキュラム作りについていくつか意見を述べたいと思います。</p> <p>一般教養の重要性。現在の日本の大学・大学院の多くは一般教養を軽視する傾向にあります。スペインの哲学者オルテガ・イ・ガセットはその著書『大学の使命』において、「生は混沌であり、密林であり、紛糾である。人間はその中で迷う。しかし人間の精神は、この難破、喪失の思いに対抗して、密林の中に「通路」を、「道」を見出そうと努力する。（中略）その諸理念の総体、ないし体系こそが、言葉の真の意味における教養〔文化〕（la cultura）である。」と述べ、大学における一般教養（liberal arts）教育の重要性を説いています。VUCAの時代に、鳥瞰的な視点を持ち、自ら考え、実践できる人材を育てるためには、厳選された、学生にとって無条件に必要な土台になるものを、初期の段階（1・2年次）で徹底的に教え込むことが重要だと考えます。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 180 | <p>ビジネススクールの弊害。21世紀に入り、これまでの経営者教育(マネジメント教育)には限界があることが指摘されるようになりました。その典型的なものに、アメリカの経営学者ヘンリー・ミンツバーグが主張するMBA教育批判があります。</p> <p>ミンツバーグは、「経営というものは、アートとサイエンスとクラフトの混ざり合ったものだ」と言っています。アートとは組織の創造性を後押しし、社会の展望を直感し、ステークホルダーをワクワクさせるようなビジョンを生み出すもの。サイエンスとは体系的な分析や評価を通じて、アートが生み出した予想やビジョンに現実的な裏付けを与えるもの。そして、クラフトとは地に足の着いた経験や知識をもとに、アートが生み出したビジョンを実現するための実行力を生み出すもの、という意味です。ミンツバーグの主張は、これら3つのうちどれか1つが突出していてもダメだ(3つのバランスが大事だ)というものです。</p> <p>MBA教育では、これら3つの要素のうち、サイエンスに偏重した教育がクラフト(実務経験)のない教員たちによって行われてきました。このことは、欧米の経営大学院だけではなく経営を専門とする日本の多くの大学・大学院にも当てはまる課題です。経営理論やデータ分析、情報技術などのサイエンスを学ぶことは大事ですが、アートやクラフトをどう学生に学ばせるかカリキュラムをつくる際に工夫していただければと思います。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 181 | <p>アートをどう学ぶか。上に挙げた3要素のうち、クラフトについては基本構想に書かれていた「実践的なカリキュラム」や「県内企業との連携」によって何とかなりそうですが、アートについてはどのようにしたらいいかが課題となります。そこで私が提案したいのは、「佐賀県西部地区に広く分布する陶芸文化をアート教育に活用する」という案です。</p> <p>アップルのスティーブ・ジョブズが日本のアートに多大な影響を受けていたことは有名です。彼はマーケティングリサーチなどのサイエンスをあまり信用せず、直感や感性といったアート(美意識)を重視していました。日本の「新版画」からインスピレーションを得て自由に作画ができるPC「マッキントッシュ」を開発し、滋賀県の「信楽焼」を手で触れた感触から丸みを帯びた形のiMacやその後続くMacBook、iPhoneを開発しました。彼は、作品の美しさだけでなく、その背後にある日本人のモノづくりに対する姿勢を学んでいたともいわれています。</p> <p>佐賀県には400年以上続く陶芸文化があります。“鑑賞する”、“手で触れてみる”、“実際に作ってみる”、といった行為を通じてその文化を掘り下げていくと、ジョブズのようにこれからのものづくりに役立つヒントが見つかるかもしれません。</p> | B | <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 182 | <p>私は大賛成の立場です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立大学設置の効果として、県内進学率の向上も大切ですが、卒業後の県内就職率の向上も、さらに重要なことだと思います。 ・今回他県の進学率は説明されましたが、県内就職率の情報も開示してほしいです。 ・また、目標となる率（例えば50%など）もぜひ示していただき、県内企業等の人材不足解消に貢献できる大学になってもらいたいと思います。 ・県内進学生→県立大学→県内就職が理想ですが、井の中の蛙にもなり得ます。ぜひ、県外、海外研修や留学生の受け入れなども積極的に導入し、幅広い知見や経験を得られる学びの場になるよう願います。 | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> <p>引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。</p> |
| 183 | <p>県民としては、自分の住む県に大学ができるのは基本的に賛成です。</p> <p>県立大学ができれば、また入学者の県内卒を作れば確かに自県進学率は増加するでしょう。しかし、県が大きな予算をかけて力を入れれば入れるほど、優秀な卒業生は地元企業に入らず、県外の大企業に流れるのではないかと。国全体としてはのぞましいが、優秀な大学、学生になるほどに、世界に羽ばたきたいと思うのは当然ですので、二律背反的な流れが出るのに県としてはどう対応されるのか。</p> | B | <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> <p>引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。</p> |
| 184 | <p>県立大学の設置場所は、各市町村の思惑ではなくて、「学ぶ学生」にとって県内でどの場所がいいかの観点から考えてほしい。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 185 | <p>県内には私立大学は西九州大学のみですが、同大学にどの程度公的支援があっているかはわかりませんが、現在の設置場所や立地条件からみると大学設立には相当苦勞されたと思われる（端的には、場所がもっと市街地に近いところが望ましいと）それで「私立大学」としていろいろ努力されておられれば、「土地提供」など公的支援をやってほしい。</p> | D | <p>私立大学だけでなく、佐賀大学とも連携を取りながら、県内の高等教育機関の充実を図っていきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 186 | 弘道館の流れをくむ県民の一人として、大いに期待しています！ 少子化の時に佐賀県がやる意味は？県外大学でもいいのでは？などの意見もあったが、佐賀の最大の資源は「人材」。志のある人材を育てないと佐賀の未来はないと考えます。 後発だからこそ思い切った特色のある戦略が必要。 1 出口戦略=就職に強い大学 → 企業との協働、委託研究、インターンシップ 2 自ら考え、答えを出せる教育 → アクティブラーニングcommons etc | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 187 | 県内のほとんどの地域から自宅通学が可能となる場所への設置で、費用が少なく効果が大きい大学なら、新規の県立大学の設置はあってよい。 上記の条件から、 ① 旧唐津藩の地域に設置すること（現代の耐恒寮をつくり、高橋是清を招く） ② 費用と用地の軽減のため唐津市内の県立高校の一つを大学に発展させること | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 188 | 定員数すべてを県内出身者だけで満たすのは難しいと思うので、県外からの入学者のことを想定しているかどうかもちきちんと説明したほうが良いと思います。 (入学定員を満たさなければ経営は成り立たないと思うので、全体のことをもう少し吟味する必要があると思います。) | A | 県外からの入学者も想定しています。 |
| 189 | 首都圏は子供の人数も大学数も多いと思うが、本当に「県内に大学があるから、行きたい学部、学びたい内容があるから」という理由なのかどうか調査した方が良いと思います。（「大学に行く＝県外に出たい、実家を出たい」という理由も多くあると思うので） | B | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 |
| 190 | “佐賀だからこそ”の強みが全くないと感じました。正直、IT等を学ぶのであれば、IT関係の企業が多くあるエリア、様々なことができるエリア（都市部）への進学のほうがメリットが大きいと思うので、親として子供へは県内大学への進学は進めないと感じました。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 191 | “佐賀だからこそ”=焼き物、バルーン、水産業（海苔）、農業など、佐賀の特産や継承など、もっと佐賀の強みが必要だと思います。 (他大学との差別化のため、「ここにしかないから」など特色ある大学でないと、これからの大学は厳しいのではないのでしょうか。) | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 192 | 多様な教育機会の確保の面で、ある意味これまで他自治体に比べてハンデを背負っているような状況であったと思うので、設置については賛成です。つくらないで良いとのことにはならないと思います。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 193 | 若い世代の教育に寄与することは当然ですが、せっかくできる大学ですので、県民に開かれた大学であってほしいと思います。 リカレント教育については、社会人が受講しやすい形（日程、時間等）にご配慮いただければと思います。 オンラインでの受講メインであれば、県立大学である必要はないので、リアルで身近に大学の施設を活用しながら学習できる形が良いと思います。 | B | リカレント教育の内容については、専門家とともに検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 194 | 設置場所についての意見はありませんでしたが、私は合理的な理由での設置場所決定をお願いしたいです。単純に佐賀市、鳥栖市、唐津市などは避けてほしいです。佐賀県全体の利益を考えてください。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 195 | 附属コース設置の県立高校はどこになるのですか？現中学2年生の高校入学からスタートするには時間が足りないような気がしますが。 | B | どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。 |
| 196 | 県立・市立の公立大学の新規設置については、今後の少子化・入学定員充足等の不透明感もあり、抑制の方向性が示されている。 この政策報道に県立大学設置構想は影響を受けることもあるのか。ご意見をお聞きしたい。 | B | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 設置認可申請にあたっては、地域における大学の必要性をしっかりと説明していきます。 |
| 197 | 開学時期（令和10年4月）まで5年以上の期間があり、現在、学部設置のトレンドである「デジタル、IT、DX、グリーン」を構想されているが、5年後にはすでに全国の大学が設置申請され、需要がなくなっていることが過去の設置認可からも明確である。今後、時代の流れに合わせて学力学科の設置分野は柔軟に再検討も考えられるのか。 | B | カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 198 | この資料は4年制大学の設置数、入学定員と推察される。地方都市の場合、短大への進学者も多い。 短大・専門学校を含めた“進学率”の同人口規模、人口が少ない県との比較を示すことで説得力がより強まると思われます。 過去においても佐賀県の15歳以下人口は高い比率で推移していたものと推定します。 その意味では、大学進学率そのものが県内全体で向上していない根本の原因があると思います。初等教育人口から中・高等教育人口へつなぐ進路指導の方向性も示さなければ説得力が弱いと思料します。「高大接続」ではなく、「中・高・大接続」を県立大学の構想に含めれば、素晴らしい全国に類を見ない事例となると思います。 | B | どのような形で小中高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。 |
| 199 | 佐賀県立大学に関する佐賀県の姿勢に賛成します。 卵が先と思います。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 200 | 「約2,800名が県外へ出て行く」に対して、学生の中には、県外からきており、佐賀県内の企業に勤める気持ちの人はいないのでは？ 都会と地方での賃金格差があり、当然賃金の高い企業を希望すると思う。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 201 | 高校生があこがれを抱く敷地の広さも必要 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 202 | 1学部なら佐賀大学に1学部増やす方がコストパフォーマンスがよいのではないか。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 203 | 経営情報学部の中に工学的要素を入れることで、より実学（世の中で役に立つ）に近づくとと思われる。研究の立案と知財戦略の教育を展開することが実践的教育に直結すると考えられる。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 204 | 県都・佐賀市内に集中させることは避けるべきだと思う ある程度県内のバランスも考慮する必要があり、なぜなら、せっかく作っても学生数が定員割れでは意味がない。 県内の人口比率で見ると東部地区が西部地区より高いと思う。仮に東部に設置となれば、県内出身者も希望数は多くを見込め、プラス、福岡県側からも引っ張れると思う。それも大学の内容によるのはもちろんのことだけど。 東部には卒業後の就職先についてもいろいろの分野の企業があり、加えてここ4～5年の間にSUMCOが吉野ケ里に建設され、ICT関連での求人も望めるし、県の考えとも合致する面がうかがえる。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 205 | リカレント教育を進めるとのこと、新しい形での取組については、皆が興味を持つことが増えるし、隣県からも希望者が増すので、子供たちの普段使いできることは良いことと思う。 | A | リカレント教育も進めていきます。 子どもたちがふだん使いできるよう取り組んでいきます。 |
| 206 | 非常に見通しが甘く、高校生、企業、県民等の意見を聞いているとは思えない。ただ知事の言っていることを押し通すだけの役所仕事では？ そもそも交付金がないと運営できないようであるならば大学は作らない方がよいと思う。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 207 | 佐賀県民として県立大学構想はワクワク感がある。税金を有効に活用して、現状の構想よりも新規性のある計画としてほしい。熱い想いは伝わってきますが…。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 208 | 「基本理念」の（１）～（４）までは、どこの国公立大学にも当てはまりそうな内容になっている。例えば、ミネルバ大学やスタンフォード大学なども参考にして、もう少し、新規性を打ち出してください。 | C | 「子どもがふだん使いできる大学」など、佐賀県立大学（仮称）だからできる、これまでの大学にない大学像に挑戦していきます。 |
| 209 | 「育成する人材イメージ」「教育内容・方法」について、IT分野を強みとするのであれば、もう少し「データサイエンス」を全面に出した計画にしては。 「経営情報学部」の名称は陳腐化しているのでは。新規性を感じられない。各分野についてもしかりです。 | A | 「経営情報学部（仮称）」を基本に考えていきます。 学部のイメージをわかりやすく修正しました。 |
| 210 | 国内留学制度よりも海外留学を特色とすべきではないか。 | A | 海外留学の制度など、海外の大学との交流にも取り組んでいきます。 |
| 211 | 立地は最重要事項の一つです。各市町村の誘致もあると思うが、長崎本線沿線で、学生、教員、研究者、企業等々の利便性を最優先すべきである。佐賀市、鳥栖市を含め、福岡県とも連携しやすい、佐賀県の東部エリアが妥当である。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 212 | ミネルバ大学のような大学が「新しい大学像」のイメージだとしたら、別の「大学像」を構想するのであれば、(1) (2) (3)は構想(素案)であっても、検討のレベルが相当に低いと思われます。 | C | 「子どもがふだん使いできる大学」など、佐賀県立大学(仮称)だからできる、これまでの大学にない大学像に挑戦していきます。 |
| 213 | 学部と大学院の教育研究は、一体で構想すべき。6年一貫課程も。 | B | 大学院については、開学5年目を目途に設置を検討します。 |
| 214 | 県立大学が設立されることに期待しています。 私も当時、県立大学があれば行きたかったと思います(福岡へ進学しました)。 本日の話を伺うに、これからご検討を進められると思いますが、ぜひ前向きに進めていただきたいです。 佐賀県を盛り上げる取組に応援いたします。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 215 | 現状では、県内の就職について、慢性的な人手不足とのことですが、AIがもっと進み、将来的に人の手がいらなくなる状況になったときに、県立大学がスタートして、その子供たちが卒業する際に、出口としての就職先があるのかどうか。(もっとも、この時点で将来予測ができるのであれば、苦労はしないですが) | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 216 | 今後どういった未来になるのかはわからないものの、他県にひけをとらない、魅力的な大学を作っていただきたいと思います。 Ex. 近隣ではここでしか学べない何かを作る、地場の産業界とも深いつながりがあり面白い取組を行っている。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 「子どもがふだん使いできる大学」など、佐賀県立大学(仮称)だからできる、これまでの大学にない大学像に挑戦していきます。 |
| 217 | 学生と地元企業の交流の場が多く提供される大学になってほしいと思います。 卒業生の活躍の場が地元が増えるような創業・企業誘致の施策が必要だろうと思います。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 218 | 地方都市における大学運営に際し、教職員の確保に苦慮するという話を聞きますが、方策はありますか？ | B | 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 219 | 大卒者の県内就職者数の低さが問題である場合、県内の大卒者数が少ないことは本質ではないと思います。 魅力ある就職先であるならば、県外からも就職者が見込めるはずですし、県内の就職先に魅力がなければ、県立大学を卒業し、県外に流出する構図は変わらないのではないかと思います。 県外・高校卒業者を呼び込むことで、優秀な学生の確保につながるのではないのでしょうか。県内学生を主として学生の確保が可能なのか？ | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 220 | 幅広く「ガチ」のエンジニアを育ててほしい。 企業誘致を受けた佐賀市のIT企業で働いてますが、人手が足りません。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 将来的な学部の増設については開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 221 | 県立大学に、ぜひ農業のため、これからの日本の農業のために農学部を設置していただきたい。 | B | 将来的な学部の増設については開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 222 | 奨学金の返済のため、地元企業の就職をあきらめたという事例を聞くことがあります。この点の補助等はお考えでしょうか。 | B | 県立大学生に対する経済的負担の軽減については、引き続き検討していきます。 |
| 223 | 学位の分野について、決めておられているのであれば、お聞かせいただきたいです。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 224 | どこに設置予定か。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 225 | 高校生対象には1クラス設置予定であるが、社会人（一般対象）枠はどうなっているか。 | B | 入試制度やリカレント教育の内容については、専門家とともに検討していきます。 |
| 226 | リカレント教育はどの程度の県民が参加できて何が学べるのか。資格の取れるリカレントはできないか。 | B | リカレント教育の内容については、専門家とともに検討していきます。 |
| 227 | 県内への就職、企業が有効に働くような誘導施策を期待します。 県外の生徒も多数受験することも予想されるので、県内就労の意欲等の作文も入れる方法ができないか。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 228 | 大学の広報についてSNSを使って行うべき。 | B | 広報のあり方、手法については今後検討していきます。 |
| 229 | 定員割れがないようにしてもらいたい。 佐賀は全国の中で交通アクセスがあまり良い方ではないので、他にはない魅力的な何かを大学が持っているべきだと思う。これがあれば交通の便が悪かろうが全国から学生がおのずと集まります。県外からの人を取り込み、人口・流動人口を増やすことで地域の経済も潤います。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 230 | 定員数の試算がある程度なされていないと、建設規模は想定できないのではないか。 初期200～300人として、その後1000人規模とした際、規模の拡大を考えられているのか。大卒求人ニーズに対するデータはあったので、高卒求人ニーズの数値を知りたかった。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 定員数の拡大、学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 231 | 構想にある学部と、有効求人倍率や現在の佐賀大学に求人を出している県内企業の業種、職種は見合っているのか、分析されていますか。 県内で求められている職種・業種を加味した学部想定なのかを知りたいです。 | B | 県内の経済4団体から県立大学の早期設置要望がなされています。 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 232 | インパクトのある大学の名称にしてはどうか。佐賀県立イノベーション大学、佐賀県立クリエイティブ大学、佐賀県立チャレンジ大学など。募集してもよいのでは。 | B | 「佐賀県立大学（仮称）」を基本に考えていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 233 | 大学設置に賛成の立場で意見を申します。 確かに、今、有効求人倍率は高い状況で、学生は売り手市場、企業側は人材不足の状況です。 県内学生の人材育成・学習機会の確保は必要だが、その卒業生が望む企業が県内にあるのかということが懸念される。県外に流出した学生も地元に戻りたいが仕事に就きたい企業がないとよく聞く。大学設置とともに、ここに就職したいと思える企業誘致や地場企業の魅力を知ってもらう取組などをもって、情報発信をしていく必要がある。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 234 | 今後、県民座談会は継続して行われていくのか。ステップ的に県民と意見交換しながら県立大学新設に向けていただければと思う。 | B | 今後も県立大学の検討状況については、わかりやすく伝えていく方策を考えていきます。 |
| 235 | 構想自体には賛成する。特色のある大学、県費投入が少なく、佐賀大学と違う（すみわけができる）ものであれば。学部構想イメージが佐賀大学との違いがあまり見えない。佐賀大学との違いを明確にしてほしい。 ビジネスデータ分析分野、情報分野の学科は必要であるので創設してほしい。ただ、現在の情報分野では、クラウド等に移行していることもあり、ネットワーク技術者の不足があるので、ネットワーク分野の学科を検討してほしい。マネジメント分野は内容を再検討（期待する人材が見えない）。 指導する高水準の教員をどのように確保するのか。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 236 | そもそも文科省の新設大学の「設置認可」が確約できているのか。先に「武雄アジア大学」（R8開学）が通ったとしたら、一層困難なのでは。 | B | 設置認可申請にあたっては、地域における大学の必要性をしっかり説明していきます。 |
| 237 | 「附属コース」についてのビジョンはできているのか。現中学2年生が一期生となるので、4月には入試制度・カリキュラムが公開されなければいけないのでは。 | B | どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討していきます。 |
| 238 | ぜひ鹿島へ！ | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 239 | 学科の内容をみると、最近の流行に沿った内容になっていると思うが、ITは変化の大きい分野と思う。分野・カリキュラムの随時見直しを構造的に行える体制を整えてほしい。今後、もしAIやIT技術の進捗により不要となる分野があるかもしれないので、15年先の技術を見据えた学部設定をしてほしい。 どういった視点で、教授・講師をアサインするのか。 県内企業にITを学ぶことに拘る必要はないと思う。学生が魅力を感じるものにしてほしい。 | B | カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 240 | 大きくは、地域の社会課題発見力、解決能力が必要であり、そのためには次世代のデジタル技術、AI、データ分析、経営マネジメント、マーケティング、チームワーク、リーダーシップ、道德倫理等を学ぶべきである。まずは、地域の課題把握。特定のキャンパスはなく、佐賀県全域20市町がキャンパスとなる（空き家、廃校利用）。本質の学びの場は（教室は）地域社会であり、それをサポートするのがオンライン授業。将来、地元で地元の仕事をするもよし、地元で世界を相手にグローバルな仕事をするも可能である。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 241 | 設置場所は、キャンパスは佐賀県全体。学生を佐賀県全体で支え、地域との交流、就職も見据えた大学とする。「学びが実社会につながる大学」を目指す。 | A | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 県内企業等と連携した実践的学習を取り入れ、県全体を学びのフィールドとします。 |
| 242 | 地域の住民・大人も時代に合わせた学び直し（リスキリング）ができる大学もよいのではないかと考える。 | A | リカレント教育も進めていきます。 リカレント教育の内容については、専門家とともに検討していきます。 |
| 243 | 県立大学の新設は遅いくらいだと思います。設置は必要と思えます。 キャリア教育が初等教育の中で進められても、佐賀県内にも、地域に高等教育機関がない地域もあり、子供たちもイメージを持っていないのではないかと考えます。 現在、リカレント教育について、就労しながら研究を続けるには難しい状況もある地域もあり、そのような地域への県内の高等教育機関の設置が（大学院も含み）検討されるべきではないかと思えます。 10年後、その後も含めて佐賀の社会課題を解決できる方向性を示してほしい。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 244 | 県立大学の設立は、以前から「県民の要望」ではなかったと思います。ぜひ設立してほしいと思います。 ただ、「なぜ今なのか」という点では説得力が少ないと思います。1学年300人程度で劇的な変化が生ずるかはどうかと考えます。 小中高校での教育力の向上を図る中で、県内大学の魅力度を向上してほしいものです。 国際教養大学や会津大学のように特色ある大学になることが大事だろうと思います。総合大学化が必要とは思いません。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 245 | 経営情報学部は、時代に即したものだと思いますが、逆にありふれた内容にならないか心配するところがあります。 理系色の強い実践的な内容になるとよいと思います。 ただ単に、大学を卒業しましたという人材にならないようお願いしたい。 | B | カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 246 | 県立大学の設置に賛成です。子供たちが地元で学び、地元の人と交流できるような大学を作ってほしい。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 247 | 県立大学については賛成しかねている。 「人材」を学力的に考えると、その県外流出は、中学卒業時に始まっている。国内大学の募集停止の現実、現在もまた今後も加率的に増大するものと思われる（教職員の採用には、これからの開学には朗報か？）。 これからの人材育成を考え直すのであれば、県立高校の在り方について再考されるのが最短であると確信している。 就職人材の育成を考えるのなら、現在国立の工業専門学校を県立として設置する方が望ましい。 医療、介護から、農業の衰退までをカバーできる政策だとは思えない。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 高等教育機関の充実には高等専門学校も有効だと考えています。今後どのような手法が採りうるのか、引き続き研究していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 248 | ぜひ伊万里に設置をお願いします。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 249 | 県立大学構想については大賛成です。大学はないよりあった方がよい。学生の選択肢が増える。地域活性化の意味合いもあると思います。ぜひ都会よりも活性化は大きい伊万里に設置してほしい。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 250 | 県立大学の設置は賛成するが、学部の構成が県内に立地している業種とは合致しておらず、特性は活かせないのではないか。経営情報学部の必要性は理解できるが、学部以外のカリキュラムでも学ぶことは可能。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 251 | 大学の設置場所について、通学利便性等を考慮し、決定するというものについても一定理解するが、全国的に見ても人口規模が多い都市部の大学を見てもわかるとおり、駅があるなど公共交通機関が整っている場所に設置されている大学も閉校に追い込まれている現状にある。このことは、「場所」ではなく、何を学ぶことができるのかなど「特色」が重要であることを物語っている。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 252 | 大学の設置場所について「企業、研究機関、教育機関など…」という考え方を示されているが、県立大学の設置による副次的効果も示されているように、設置場所の経済波及効果、地域振興の面での効果も非常に大きい。基本構想に示されている考え方で設置場所を選定すると、そもそも副次効果が存在する場所にしかならない。広島大学は広島市内ほかに分散していたキャンパスを東広島市に集約移転した。こんな田舎に移転するのかと戸惑ったが、今では立派な街ができあがっている。地域振興の観点も十分に考慮していただき県全体の都市計画という意味でも場所を決定していただきたい。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 253 | 県と将来の県人材（若い県民）にとってとても貴重な計画ですので、県民や民間の参加度の高い取組の中で進めていただきたい | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 254 | 県立大学構想自体には賛成です。ぜひ唐津市に作っていただきたいとも思います。しかし、大学のビジョンが見えず、意見のしようがないとも思いました。進学先の受け皿を作るという問題意識はわかりますが、令和10年開校まで時間がありませんので早くビジョンを県民に伝えるようにしてください。 | B | 学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 分かりやすい説明に努めていきます。 |
| 255 | 現在の佐賀大学に通っている方は、卒業後佐賀県内に就職したいのか？大学卒が当たり前で通っているだけではないのか？ 企業誘致はどのように行うのか？県内にある企業に対してはアプローチをどうするのか？ 運営で地方交付税をあてにしてよいのか？ 将来の人口減少がさらに進む中で、どのように選んでもらえる大学を考えているのですか？ | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 256 | 座談会に出席される方は、それぞれの期待をお持ちの基本的に賛成の方々だと感じました。反対の方の意見（理由）も大切にすると、逆に見えてくることもあるのではないかと思います。無関心の方には関心を持っていただくことも意味があると…。 | B | 様々な意見をお聞きすることで、新しい気づきも生まれると考えています。 引き続き分かりやすい説明に努めていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 257 | 県外からの受け入れが長い目線で見ただけでは経営としては大事な事かと思えます。県外からや国外からの生徒の受け入れに力を注ぐこともお願いします。 | B | 近隣の県に限らず、県外からの入学者も想定しています。視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます |
| 258 | 県内の子たちの受け皿として、地元の企業の求人結び付ける構想に賛成します。理想的な大学よりも現実的な将来を現代の子供たちは求めています。 ただ、見分を広め、世間を見渡して、社会性を身に着けるには、福岡市の学校に通学するほうが一般常識も身につくこと、就職先やアルバイトの選択肢が増えることもあり、佐賀県の弱さがデメリットになると感じます。 唐津ー福岡の利便性の良さが、大学設置の足かせになるかと存じます。 以上は、子育てをしている身からの個人的な感想です。応援します。期待しています。これが地域産業の活性化につながるよう期待します。 | B | 県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。 ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 259 | 理念は正しいと思われるが、4年制でなくてはならないのか？ 高専でも可ではないのか？県立であるなら、高専から大学への移行も可ではないのか？ | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 高等教育機関の充実には高等専門学校も有効だと考えています。今後どのような手法が採りうるのか、引き続き研究していきます。 |
| 260 | エネルギー関係に特化した教育機関や学部が有益ではないのか？ | C | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 261 | 県内の企業に力をつけなくては、人は残らないと思う。受け入れ側の体制が整ってなくては、厳しいのでは？ | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 262 | 県立大学の学部については、技術技能者が減少している中で、実業に直結する教育を行ってほしい。佐賀県には玄海原子力発電所があり、エネルギーに関する技術者が減少している中で、東京大学にあった原子力工学部がなくなったため、この機会に、佐賀県立大学の中に、原子力工学部を実践的な形で学べる学部の設置を求めます。 | C | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 263 | 教育県「佐賀県」を目指す県としては県立大学は必要。人口流出の多い唐津市を「なんとかせねばいかん」唐津市に建設していただきたい！ 九州大学（福岡市）との連携をしていくべきだ。魅力ある大学、行きたいと思う大学を目指すべき。そのためにも近くにある「九州大学」と深く連携すべき。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 まずは、佐賀大学・西九州大学をはじめとする県内高等教育機関との連携を考えていきます |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 264 | <p>近隣の県の大学数に勝つことは絶対に不可能です。他の県と同じ大学を建設しても、人口増加にはつながらないと思います。今はゲーミングの時代だと思うので、ゲーミングの学部みたいなのを検討するといったと思いました。また県が作る遊楽街やアミューズメントを増やすべき。</p> <p>コストはかかるとは思いますが、全国でトップクラスの学部を作ると全国からの人を集客できる。</p> <p>スポーツに力を入れた分野はないのか。佐賀県内にもスポーツで全国に活躍する選手はたくさんいます。その方々が、他の大学で有名になるより県内の大学に留め、他の下の子供たちに夢を持たせられるように、佐賀県に留めることにも力を入れるといったと思いました。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 265 | <p>学部の選定に当たり、経営情報学部と決定された理由はわからなかった。</p> <p>失礼ながら、文系の学校より、技術系の学部を希望します。県内の建設会社の技術者の不足、国家・地方公務員での技術職の不足は今後の少子化によりもっと顕著になるのではと考えます。佐賀特有の歴史学、窯業、海洋、風力などに関連する技術系の学部を切に願います。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 266 | <p>現状での県内の人口状況等から、大学の必要性はなんとなく状況を知ることはできた。しかしながら、今の考え方自体は、資料、説明を聞いても、あまりにも漠然としすぎて、説明の内容が、（データの分析とか）薄すぎるように感じた。</p> <p>また、大学をどのような姿になるのか、総合なのか、単科なのか、理系なのか文系なのか、文理混合なのか、県の意志が見えなかった。</p> <p>他県の状況を説明されたが、地勢、大都市、交通体系が違いすぎており、一概に比較するのはどうかと考える。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>引き続き、県立大学設置の必要性については、分かりやすい説明に努めていきます。</p> |
| 267 | <p>自県のみをの学生を目的としているのか。他からの生徒流入はどのように考えているのか。</p> | D | <p>県外からの入学者も想定しています。</p> |
| 268 | <p>求人倍率の話もあったが、現在の大学生の目標とする職業が県内にあるのかというも疑問であった。</p> | B | <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> <p>引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。</p> |
| 269 | <p>大学をつくるということを県民に説明するには、もう少しデータ分析したということを説明してほしい。</p> <p>財政面、運営にあたってあまりに甘すぎるし、その後大学の経営がうまくいかなかった時に責任をとるのか。</p> | B | <p>具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。</p> <p>引き続き、県立大学設置の必要性については、分かりやすい説明に努めていきます。</p> |
| 270 | <p>できるなら、特定分野で突出した専門の学問をできるような教育機関にしてもらいたい。</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 271 | 大学の設置場所について、資料にもありましたように通学利便性を考慮し、という点は、私も最も大事と思います。 佐賀県内で見ると、東部は福岡に近く、自宅から通える選択肢も多くあることから、県西部を考えた方が、佐賀県全体の活性、底上げになるのではと考えます。 こうした通学とエリアを考えた時に、最も考えられるのは武雄市ではないかと考えます。 東部と比べて西部は高校も少なく、若年者の地域でのかかわりもその分、少なくなると思います。武雄市では、武雄青陵中学を武雄高校と併設型にし、武雄青陵中学校の跡地に大学をという意見が多くあります。武雄高校は体育館も古く、遠くないところでハードの整備が必要と思います。それとあわせて中高一貫の建物の整備、そして県立大学をと考えます。佐賀県西部の活性は佐賀県全体の活性につながると信じています。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 272 | あらゆる分野の人出が足りない問題に対し、地域産業の担い手を育成するための誘致という手段であるが、経営情報学部で、地域産業の担い手を育成できるのでしょうか。経営、情報の分野を佐賀で設ける意味がよく伝わりませんでした。 1. 43倍の求人倍率の中に、情報分野を収めた学生をどれほど望んでいるのでしょうか？そもそも、1. 43倍の求人の職種はどのようなものでしょう。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 273 | 人口密度や他県への流出など、必要性や有利な条件が今まででありながら、大学を誰も建てようとしなかった背景を説明していたら、改めて必要性を知れたと思います。 | D | 過去に2度、県立大学の設置の必要性が議論されましたが、大学改革や地方財政制度の変革により、断念せざるを得ませんでした。 |
| 274 | 最後に、事務屋なので、答えられないとの回答がありましたが、意見交換の場には専門家の方を設けてほしかった。 | D | 学びの在り方等の詳細については、今後、専門家とともに検討していきます。 |
| 275 | 県内に大学が1校増えたことで、少子化や佐賀県が抱える問題が解決するのでしょうか。 大学を増やすだけでなく、専門学校等の活用が必要ではないでしょうか。 唐津市は専門学校があります。専門学校との連携をするのか。 | B | 佐賀県が抱える課題に対して、県立大学だけで解決するわけではありませんが、県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 専門学校についても、どのような連携ができるのか、今後考えていきます。 |
| 276 | 全国で私大の定員割れが過去最大となった世の中で、学生を集めることができるのか。 なんで国公立を志望するのが多いか、検討したデータを出してください。 | B | 県内から多くの方々に入學してほしいと考えており、そのため地域の枠、専門高校枠などを検討していきます。 国公立志望者が多い理由を網羅したわけではありませんが、高校生との意見交換では、「学費が安い」ことを理由にあげる高校生が多くいました。 |
| 277 | サテライト会場（キャンパス）については、新規建設だけでなく、既存施設の利活用も含めて検討してもらえたらと思います。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 278 | <p>第一に、教育の目的が明確化されていないので話が進まない。</p> <p>県内に残り就職するために必要な学びを考えていますか？佐賀県内に大企業ではなく、多くの中小企業も有ります。足元の中小企業にもマッチする学部などを考えてほしいと思います。</p> <p>大学に行く理由として、大企業に入り裕福な生活をしたなどの意見も有ると思います。県内の大学を出て、県外に就職するようになると思います。</p> | B | <p>産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。</p> |
| 279 | <p>設置場所についてですが、今後決定されると思いますが、公共交通機関、特に電車の本数を増やしていただき、車両も増やしてほしいです。</p> <p>私は現在、唐津から電車で佐賀へ通勤しておりますが、通勤時間帯の本数が少なく車両も少ないため、立っている人が多いのが現状です。</p> <p>公共交通機関等としっかり連携することで、佐賀県立大学に行きたい人も増えると思います。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 280 | <p>学部の選択肢が少ないと感じた。文理の選択が最低でもできるといいのでは？</p> | B | <p>ITと経営の双方が学べる理文融合の学部を設置したいと考えています。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。</p> |
| 281 | <p>県立大学が設置された場合、佐賀県の大学進学率が増加する可能性があるかと思います。将来的には、雇用問題の解決に向けた対策になるかとは思いますが、設立から4年間は、求職者が減るのではないかと考えます。この設立から4年間の雇用について対策があるのか聞きたい。</p> | D | <p>大学進学時に県外に8割以上（約2,800名）が進学しており、若者の人口流出が課題となっています。</p> <p>高校生の県内就職率の向上には、引き続き取り組んでいきます。</p> |
| 282 | <p>建設費はこの期間で回収（効果として）できますか？</p> | D | <p>具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。</p> |
| 283 | <p>建設用地は早めに発表してほしい。用地取得に時間がかかっては開設時期が遅れるためです。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |
| 284 | <p>将来の県立大学運営の課題は、少子化問題よりも、「財源の確保」と「認知度up・行きたいと思える魅力づくり」なのかなと思いました。</p> <p>学費と県費でまかなえない分の財源をどうやって確保していくのが少し不安になりました。県内企業や県民からの支援（クラウドファンディングとか？）をするにしても、佐賀県の規模を考えると、継続的な資金の確保が難しそうだなど。単なる県立大学ではなくて、何かに特化した魅力的な大学として、近隣都市や全国からの支援を検討の必要があるかなと。</p> | B | <p>具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 285 | 認知度に関して、学校や民間企業へのアプローチ以外にも、SNS（instagramやfacebookなど）や、広告でのPRが必要になるのかなと思いました。認知度upを魅力の発信と一緒にやっていく必要があると思いました（新設大学なので、就職企業の事例や偏差値など、大学選びでまず比較する情報がないため）。 魅力づくりに関して、座談会中にも意見が出た『何かに特化した大学』を目指して設立していただくといいなと思います。例えば、唐津市は韓国の麗水市と姉妹都市なので、留学生の受け入れなどで韓国語学や文化に特化した授業や、韓国企業と協力して実践的な経営留学などできると面白そうだなと思いました。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 286 | 私は昨年福岡市から唐津市に移住してきて、街の雰囲気やくんちの祭りなど、とても魅力のある市なので、県立大学の設立で佐賀県に少しでも活気が戻ると、とてもうれしいなと思います。 まだ素案なので、具体的な構想はこれからだと思いますが、どんな大学になるのか楽しみにしています。厳しい意見も多いと思いますが、期待している県民の方も多いと思うので、頑張ってください！ | D | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 287 | 唐津市では平成2年から県立大学誘致に取り組んできているが実現していないとのこと。その要因と今回の県立大学との違いがあれば説明してください。 | D | 佐賀県では、過去に2度、県立大学の設置の必要性が議論されましたが、大学改革や地方財政制度の変革により、断念せざるを得ませんでした。 |
| 288 | 今回の県立大学は大学院の設置までお考えとのことだが、どのような意図、考え方なのか教えてください。 | D | 大学の機能は複数あり、このうち研究環境を整えるためには、大学院の機能が必要だと考えたためです。全国の100ある公立大学においても、約9割に大学院が設置されています。 大学院については、開学5年目を目途に設置を検討します。 |
| 289 | 県立大学設置の場所についてだが、どのような選定基準のもと選定に当たられるのか、選定についての考え方及びその状況はどのような状況なのか説明してください。 また、どれくらいの敷地面積が必要になるのか教えてください。 | D | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに合った場所を決定していきたいと考えています。 仮に収容定員を1000名程度とした場合、大学の設置認可基準によれば、最低でも1haの敷地面積が必要です。 |
| 290 | 今後のスケジュールについてですが、建設地決定時期、大学校舎建設時期、開学時期について教えてください。 | D | 開学時期は令和10年4月以降を目途としています。 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 291 | 基本構想に「これまで大学進学を諦めていた高校生や希望でなかった県外大学に進学していた高校生にとっては新たなチャンスとなります」という文言があるんですけども、こちらは具体的なデータに基づいたことなのか、そういった印象があるってことなのか、教えてください。 学部の構成もアンケート等があるのでしょうか。 | D | 統計データはありませんが、県内進学を希望しても選択肢が限られているため、やむなく県外に進学せざるを得なかったという声を耳にします。 |
| 292 | 経営情報学部のうち、情報分野とビジネスデータってところは具体的にどういった住み分けをされるってところが決まっていれば教えてください。 | A | 情報分野とビジネスデータ分析分野との区分がわかりにくいとの指摘があったので、データサイエンス・情報分野にまとめています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 293 | 学生さんが先ほど佐賀県内の大学に適切な自分の進みたいようなものがなく、従って県外に出るといようなことをおっしゃいました。そういう方たち、高校生の声を現実に聞いたのか。 | D | 県内高校に協力してもらい、お話を伺いました。 |
| 294 | 県の構想というのは佐賀県に学生をとどめおくということになるでしょうけども、果たして、佐賀に、そのように学生が定着するような採用があるかということなんですよ。肝心要の受入体制がちゃんとあるかと。経済界、この経済会の人たちともお話になってるのかどうか。 佐賀で具体的に、1番動いてる産業グループは経済同友会なんですよ。経済同友会のトップ、役員等々とのお話等々はされたのか。 | D | 佐賀経済同友会の役員の方々へ個別に説明に伺いました。 |
| 295 | 文科省の推計で、2050年の大学入学者は49万人になる、22年を13万人下回る、という記事が載ってました。大学の生き残り競争は厳しくて、淘汰加速は必至だという内容も。また、文科省の中教審諮問で、大学の統合再編促進という方針が出されております。少子化加速で、日本全国で、規模は正ってというのが当然であろうというような記事だったと思います。よほどの、特別な事情がない限り、新設大学ってどうなんだろうなと思います。 文科省の設置承認にも本当に通るんだろうかと、心配をしている。 | B | 設置認可申請にあたっては、地域における大学の必要性をしっかりと説明していきます。 |
| 296 | 佐賀県立大学っていうのは、卒業生の活躍の場っていうのは、国内外問わずなのか、佐賀県に残ってもらうような学生を育成していくのか、そういったビジョンが、今の時点でどのように考えるか、教えていただけるとありがたいです。 | D | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 297 | 9月17日付の日経新聞で公立大新設抑制を、文科省が指針を示しているという記事がございました。実際は、抑制するというよりは、審査を厳格化するっていう記事でしたので、完全に抑制するというわけではないとは思いますが、少し、ハードルは上がってるのかなと。求められる分析の内容とかがけこう高度にせざるを得ないというところがありましたので、ぜひ綿密にご検討いただけるといいのかなという風に感じております。 | B | 設置認可申請にあたっては、地域における大学の必要性をしっかりと説明していきます。 |
| 298 | 産業界との連携のところですが、新しく出ている構想を見ますと、通常の大学における産学連携の枠を超えた形でかなり最初の方から教育のカリキュラムにもかかってきますので、相当の連携の議論を産業界や団体としていかないといけないんじゃないかなと思っておりますので、開学して準備するにはとても間に合わないと思います。 おそらく2年ぐらい前から県内の企業さん、キーパーソンの方に顔が利く人をつけて、場合によたら知事のトップセールスもしながら調整するっていうことやらないと、おそらく、絵に書いた餅になってしまうのを感じておりますので、ぜひ、そういったところも、ご検討いただけるといいのではないかなという風に感じております。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |
| 299 | 基本構想の素案には明治維新の大木喬任を引き合いに出しながら志を高く掲げられておられて大変期待しているところです。今から後発の佐賀県がうって出るといことについては、並大抵優しいことではないと私も思ってますし、相当尖った特色が必要であると考えておまして、2つだけ提案させていただきます。 出口戦略がとても大事だと思います。それは佐賀県前提の就職に限らなくていいと思いますけども、できれば、位置づけるには、佐賀県内の就職、佐賀県内に貢献できるような人材を育成するのが筋だろうと思いますし、そのためには、地元経済、研究機関、教育機関と意見交換とかされるといいと思いますけど、これから、具体化するにあたっては、事業パートナーとしてともにするぐらいの、突っ込んだ取り組みが不可欠であろうと思います。 その取組は、色々ご議論あると思いますけども、例えば、インターンシップは当たり前ですし、学生の頃から、社会体験、地域体験を積ませるとか、実践的な教育をすることか、そういうことを、実践していくことです。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 300 | 教育カリキュラムの内容に関する事で、もうすでにご議論あると思いますけれども、上から教える時期はとっくに終わってて、教えられたことを教えた通りにやる学生を育てるだけでは、もう社会では全然通用しませんよね。文科省も重い腰を上げて、アクティブラーニングやらなんやら色々議論を始めてますけども、経済会の方が危機感が強いですね。自らの頭で考え、チームで答えを出していける、そういうリーダーシップを持った人材を欲しい。切実な経済界の願いだと思いますし、教育内容も大胆にそこに舵を切ってますね、佐賀県立大学が先端を切るぐらいの意気込みじゃないとたぶん勝てないと思っています。ぜひその辺をよくご議論いただきたいなと思っています。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、鳥瞰的な視点で自ら考え実践することのできる人材を、地域のために輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 301 | ハード、すなわち建物、これは箱物ですから、作ればできると思います。ただ、その中に入れるべく、研究のためのですね資材をどの程度お考えなのか。先ほど来、新設の大学の中での教育の目標というようなことをご説明あったんだけど、それに対しての教育資材をどうお考えなのか。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 302 | ソフト面としてはそれを教える先生方をどのようにお考えなのか。正直言って、なかなかいい先生はいません。県として何か基本のお考えがあるとすれば、こういう方を県立大学には要請してきていただくんだと、そういう教育をするんだというようなことを、その辺に関してどういう考えなのかをちょっとお尋ねしたいと思います。 | B | 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 303 | 今更、佐賀に大学必要なのかなってというのは正直あります。 もっと佐賀自体は、幅広く、新幹線にしてもオスプレイにしてそうですけど、広く考えて、今の時代ですから。佐賀に大学が少なければ、福岡の大学、長崎の大学でもいいし、もうちょっと俯瞰的というか、もっと広い視野で佐賀県の位置付けとか特色とかを生かすことを考えてもいいのかなと、思っています。 | C | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 304 | 経営情報学部（仮）になってますけども、なぜ経営情報学部にされたのか。 | D | これからの時代は理系、文系の双方に理解がある人材が求められる時代であり、理系・文系の双方に土地勘・センスを持った人材を育成できるよう、ITとマネジメントを柱とする学部としていきます。 |
| 305 | 建設費、最大200億で、運営収支がずらっと書いてあって、ざっくり計算で10年でペイできるのかなってところ。少子化が進んでますんで。よその県では、大学の合併とか色々あるかと思うんですね。そこで、本当にペイできるのか。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 306 | 場所について。いつまでにどこに、というのが、大体いつぐらいまでに決まるのか、概要だけでも、県の案だけでも教えていただけたら。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 307 | 大学卒業後にどれだけ佐賀に戻ってきて就職されるのか、ということが問題とっております。県外の大学を出た人がどれだけ佐賀に戻ってきてくれるのかというデータがあれば、教えていただきたい。 佐賀の企業さんもちろんもっと魅力ある企業にしていきたいし、それに戻るために佐賀を出た学生さんが戻ってくるような、仕掛けというか、そういうのが必要かなとっております。 | B | データはありません。産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 定住・移住施策についても、引き続き取り組んでいきます。 |
| 308 | なぜ1000人で試算されてるのか。今日、資料拝見させていただくと、人が足りてないってところになってくるのかなと思うんですが、であれば、もう少し増やしてもいいのではないかと。 | B | 将来的な定員数の拡大、学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 309 | 経営情報学部って最初の方の質問にありましたが、他の学部も検討されていくのか。 | B | 将来的な学部の増設については開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 310 | 大学を出て、佐賀から出ていってしまうのではないかっていう危惧に対して、私も同じことを考えております。今、福岡県がライバルだと思っておりますが、最低賃金は、上げられているが、平均賃金っていうところでは、大きく差が開いていると思っております。この取り組みと一緒に、今後、給料を上げていくんだというような動きをされるのであれば、その辺りも、ご意見を聞かせていただきたい。 | D | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 311 | IT関係の具体的なカリキュラム、どんなことを考えていらっしゃるんですか。一括りにITと言われても、大きすぎるんじゃないのと思ってます。 それと、今日、日経新聞の九州版に、佐賀と宮崎と熊本以外で全大学半導体コースなんて書いてますけども、やると金かかりすぎるから、別口がいいと提案してます。本質的なところで進めてほしいと思ってます。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 312 | 県の関係者の中で、実際の大学の講義を参考のために見に、聞きに行かれたことはある人はいるんでしょうか。ハイブリッド、オンラインがすごすぎて、戸惑ってる人がまだいます。でも、逆に言えば、オンラインのシステムは使うべきです。そうすると、どこに大学を作るねんとか、あんまりイメージがわからなくていいですよ、別にここでもいいですよ、と思っています。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 313 | 理文融合を実際やろうと思うと非常に高い学生のレベルとかが要求されます。今回の県立大学っていうのがどの辺りのレベルの学生集めをされておられるのかを、教えていただきたい。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 314 | それなりの教員も必要になると思うんですが、どう集めようとされておられるのか。 | B | 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 315 | 農業大学校を作っていただきたい。佐賀県はもちろんですけど、日本という国はものすごく農業を作るに適した国です。世界中で砂漠とかいっぱいあって、雨が降らない地域もある中、日本っていうのは、地形的にもものすごくいいところにある島なんです。日本で農業して安心、安全な食べ物を作っていけば、日本の食糧自給率ももちろん上がります。これから食糧安全保障については大切なことだと思います。 農業大学を作った場合、そこに入る人は多分、自分の身の周りに農業してある方が多くて、その関係の人が入ってくるのかと思って、その方が、大学に入れば、また今度は地元、佐賀県に戻ってきてされることが多いんじゃないかと。工業関係であれば、もう県外に出てくる、出ていく人もたくさんおられますでしょうけど、佐賀県にぜひ農業を推進していただいて、これからの日本というか、世界中の食糧を支えていく県にしていいただければと思っております。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 将来的な学部の増設については開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 316 | 佐賀県内の学生さんが県外に行かなければならない状況があるんだとかいうことをおっしゃっていたと思うんですけど、それは、きちんと今、高校生なのか、中学生さんとかに聞いていらっしゃるんでしょうか。そういった、調査済みなのか、この先ご意見を聴かれるご予定があるのかを教えていただければと思います。 | D | 県内高校に協力してもらい、お話を伺いました。 |
| 317 | 生徒さんから多くの意見があった、と聞いたのですが、その中で1番多かったところに建つんでしょうか。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 318 | 1000人で始めて、今後人数増やしていくと受け取ったのですが、その認識で間違いはないのか。 人数増やすっていうことは、簡単ではなかったかなと理解してるんですが、その辺りのご認識もお伺いしたい。 | B | 将来的な定員数の拡大、学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 319 | 認可審査が厳しいという点で、9月16日の日経新聞に公立大学の新設抑制へというショッキングな報道がなされました。どのように考えられているか。 | B | 設置認可申請にあたっては、地域における大学の必要性をしっかりと説明していきます。 |
| 320 | 佐賀県内に県立大学を考えてらっしゃるということは、非常にいいことだなと、ちょっと個人的に思っています。高校生に意見を聞かれたってことなんですが、高校の先生方とか、その保護者の方とか、そういう方に意見を聞かれたとか聞く予定があるとかわかれば教えてください。 | D | 県内高校に協力してもらい、お話を伺いました。 |
| 321 | 学部構成のイメージ、マネジメント、情報分野、ビジネスデータというのは、時代に即してて、すごく素晴らしいなという風に思っています。全体的には、すごくいい大学ができるんじゃないかなという風なことで、賛成の立場でお話をさせていただいています。その中で、安全対策・セキュリティ対策が、やってもやっても、まだまだ。その技術って、いい方向に持っていけば、いろんな産業の手伝いになった地域を作ったりできると思うんです。安全対策の技術を道具とし勉強すべきだと思っています。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。また、カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 322 | 心の道徳・倫理をしっかりと学んで、デジタルは、あくまでも、ツールですので、使う人によって、良くも悪くもなってしまう、そこは、しっかりと、学びの場を作っていただきたい。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 323 | 地域に1つは、地域活性化っていう風な視点でということが言われてますが、私自身は、県内全域をキャンパスにしていんじゃないかっていう風に思っています。空き家、廃校などを使いながら。社会課題を解決するという視点からいくと、県内20市町各地域に、いろんな社会課題があります。1つずつを教材として、学びの場として考えるのであれば、県内全域をキャンパスっていう風な捉え方もあるんじゃないか。 | A | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。県内企業等と連携した実践的学習を取り入れ、県全体を学びのフィールドとします。 |
| 324 | 自県進学率が少ないので、公立大学を作るよ、人数は200人、と言ってるのが、乖離があるかな。例えば、佐賀大学が1278で、西九州大学540だったら、800ぐらい打ち出して、構造を変えていくべきだと思います。200人作るくらいなら、西九州大学に200人分補助金をやって、増やしてもらって、学部を作ってもらった方が早いってような感じがしますので、作るならば、最初から、ある程度の規模を。 | B | 将来的な定員数の拡大、学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 325 | 学生中心に考えるんだったら、私は佐賀市しかないと思う。地域の活性化の考えって色々あると思いますが、学生の視点から考えれば。交通費が安くて、行きやすいところが1番強いと。自動車で来る人も多いでしょうから、駐車場は作ったほうがいいんじゃないかなと。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 326 | この学部が本当にみんなが望んでる学部なのか、客観的にわからない。九州各地公立の学部の数、人数と、データを出して、だからこうなんですよっていう風なことを持っていかないと。マネジメントが本当にいいものだっていうことを出してほしい。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 327 | 県立大学、鹿島市にという思いがあって、今、どこに検討がされるかっていうの、関心事であります。そういう中で、1000人規模、それなりのキャンパスとなると、鹿島市が、現実的に、来ていただけるか、というところが個人的な見解なんですけれども、2月の基本的な考え方っていう中で、サテライトという表現、ワードがあったんですけど、分校形式は、どうかなと思っています。県内いくつかのブロックに分けてそれぞれの地区で分校を作って、その地区の高校を卒業した方の進学を受け入れ先、その後の就職先ということで、なんとか鹿島市の方にも、県立大学をというところで、分校方式というのを提案させていただきます。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 328 | 全体的に、この構想の問題意識、目的、データとか根拠に基づく政策自体には、おおむね賛成。なんですけど、定員として、収容人数1000人っていうのは、何を根拠にしているのか。 | B | 他の公立大学の例を参考に、定員を想定しています。具体的な定員数については、大学の機能、ソフト面を固めていくなかで、決定していきます。 |
| 329 | 自県大学進学率は、16.6パーセント。かなり低いっていうところで、問題意識を掲げられてると思うんですけど、将来的に、何パーセントまで持っていきたいから、1000人になるのかとか、その辺のビジョンやイメージがあったら教えてほしい。 | B | 現時点においては、自県進学率や地元入学率の見通しを明確に持っているわけではありません。入試制度については専門家とともに検討していきます。 |
| 330 | 1番問題は、大学っていうのはやっぱり大学の教授陣が問題じゃないかと私個人は思います。ですから、そういった意味で、どの程度の大学を目指されているのか。大学いっぱいありますよね、日本中。まさか東大ではないでしょうから。そういったことを考えて、どの程度の大学を目指されるのか。 | B | 生徒や保護者に選んでもらえる大学となるよう取り組んでいきます。 |
| 331 | 頭数が何人になっても、いい教授がいらっしゃったら全国すぐ集まるんじゃないかと。それについてはどうお考えか。そこらへんが1番気になる。程度とか1番言いにくい話です。しかし、ただ数ありきで進学率がどうだどうだ、そういう問題はないと思うんですね。 | B | 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 332 | 社会人の、もっと学びたい、そこに目的があるのか。新しい学生をどう育てるかっていうことにあるのか、これちょっと曖昧なような気が、私はします。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるように取り組んでいきます。社会人の学び直しにも対応します。具体的な手法については検討していきます。 |
| 333 | 学年定数200ぐらいっていうこと、小さく産んで、大きく育てるみたいなのを言われてるんですけども、それは、どのくらい大きく育てようと思って、どのくらいの時間をかけて、大きく育てようと思ってるのかですね。それで、この200人でも、2億円、県費がいるから、このくらいになったと思われてるんじゃないかな。倍でも、4億円だから、一応、移転補償を何件かするつもりだったら、大した金額じゃないと思うし、西九州大学は、500ですよ。結局、赤字っていうことを思うんですけども、赤字を出さずにやれるっていうことであれば、学費をある程度私立並みにとる部分もあるとか、そういうこともやりながら、この機会に人数を増やさないと。私立的な頭を入れて、県費を減らすようなことを考えると、ある程度増やさないと。 | B | 将来的な定員数の拡大、学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 334 | 運営収支のところ、県費が10億円と言って、その中に、8億円程度の地方交付税っていうのがあります。この地方交付税について、8億円というのは確定でもらえるものなのか。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 335 | まだ場所の選定っていうのはできてないと思いますけれども、もし場所が決まったら、その自治体が負担する金額っていうのが出てくるかどうか。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 336 | 令和10年に開学して、例えば、令和20年に、今のその自県大学進学率を何%にしたいとか、その辺のビジョン等を描かれていたら教えてください。 | B | 現時点においては、自県進学率や地元入学率の見通しを明確に持っているわけではありません。入試制度については専門家とともに検討していきます。 |
| 337 | 学部が経営情報学部、大学の名称は仮称で佐賀県立大学となっている。大学名で、大学は選ばないと思うんですけど、より学部をイメージできるような、インパクトのある、大学名、他の大学っていうのも、いいのかなと、個人的には、思ってます。 | B | 「佐賀県立大学（仮称）」を基本に考えていきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 338 | 運営収支の中で、支出が、約16億円という風な形で、されておまして、ここの、構想してる大学っていうのが、システム系の大学ということで、としますと、この16億円の内訳がちょっとどういう風な形になってるのがちょっと今、これ自体に見えないっていうのがあるんですけども、この費用で足りるのか。というのが、システム、経営の設備が、そこそこ金額がかかると思っておりますんで、そうした部分で。今後、5年に1回は当然機械の入れ替えとかいうのは出てくると思いますので、これが足りていくのかという形になれば、授業料、単純に800人で割ると、70万弱、66万ぐらいになるんですけども、これで足りるのかと。理系的な大学と同じような、費用が必要になってくるんじゃないかと思うんですけども、そういった部分はどういう風に考えられてるんでしょうか。 | B | 具体的な整備費や運営費は、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、明らかにしていきます。 |
| 339 | システム系の大学にする部分としては、今後、もう、クラウドっていう部分、今、移行が進んでますんで、ネットワーク技術がものすごく足りてないと、そういう話は聞いております。で、この部分で、ネットワーク技術者に関するような分野っていうことで、構想はないのか、その分を合わせて、ご質問したいと思っています。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 340 | 武雄にできる大学も、韓国を学ぶとか韓国人が来るとか、地元でそういう話にもなってますし、西九州大学なんか、福祉に勤める外国人が、勉強している気もします。 その国際関係に関する、この、佐賀県立大学のスタンスというのはどういう風に。 | B | 国内留学だけでなく、海外留学なども視野に入れて、プログラムを組み立てていきたいと考えています。 |
| 341 | お話の中身を聞いて、イメージにはなってしまうんですけど、こういう専門的な学校で受講します、それを全域、先ほどちょっと案であった分校型みたいな形で、いろんなところでできますよっていう風にするってなった時に、どうしても、専門学校的なイメージが出てきてしまって。 その専門学校と、今回作る大学との違いであったり、先ほどちょっと言われたようなメリットの部分ですね。大学生が来た時に、この大学やったら行きたいっていうような、専門学校じゃなくて、やっぱりこの大学の方に行きたいっていうような特色っていうところが、もしあればっていうところで、教えてください。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 342 | 大学の関係者の方とお話をさせていただくと、基本構想というものと、もう1つ、大学には必ず、戦略というものがある、大学発展と継続ですね、戦略っていうものがあるという風に、伺っています。その戦略っていうのは大学によって様々かと思えます。この戦略とも関わって、スタートは、小さな規模の単科大学、学部というところでスタートするということなんですけど、今後、総合大学に移行するようなビジョンは、中期的、長期的には検討されているのか、それとも、今後、まずは、スタートしたところで検討されていくのかというところの質問をさせていただきたいと思えます。 ただ、今お話を聞いてて、いろんな状況の中で、県内の課題に対応する大学の設置っていうのは必要なもんだなっていうのをよく感じてはおります。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 343 | 11月に案を出されるっていうことなんですけども、このままいったら、200人定員で地域分散っていう、なんかはっきりわからんような感じになるのかなと思って、それがいいっていう方がいいと思うんですけども。3案ぐらい出せませんか。1つ出したやつにアイデアが出てくるっていうことはないです。人数を生かした部分、その3案地区を分けたらこういう風になりますよっていう、想像できるようなんですよ。私は、1案を否決するか賛成するかではなくて、その途中に3案くらいがあって、集約していくっていう、そんな形がいいんだろうっていう、要望です。 | C | 県としての考えを基本構想としてお示ししています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 344 | 大学で1番大事なのは理念だと思うんですね。どういう大学を作るか。そこらへんが検討されてないような気がします。まず理念。 | B | 大学の基本理念、学びの在り方については、専門家とともに更に検討していきます。 |
| 345 | 人間の生活っていうのは多岐にわたってますんで、総合大学を目指すべきだと思うんです。最終的には、ITとか就職、就職に有利な学科を作るのもいいですけど、大学っていうのは本来人間を作るところだと思うんですよ。 だから理念と総合大学、こころ辺を目指してほしいなと思うんですよ。だから、結構広い土地を持ったところで、のびのびと学生を育て、育て上げる、人を作る、そういう大学にしてほしいなと。ぜひ、佐賀県の県立大学、そういう世界で活躍できる人を作る大学、そういうところを目指してほしいなと思ってます。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 346 | 先ほど、募集定員を見てたら、佐賀大学は1298人あるんですね。合格する人の割合を見たら、福岡県が4割で、佐賀県が3割なんです。私は、佐賀県の高校のレベルをもう少し上げたら、福岡県並みに4割とか5割ぐらい佐賀大学に入っていくんじゃないかなと思って。と申しますのは、全国の学力テストで中学校、小学校対象としたテストの結果を見ると、ずっと佐賀県は40番以下で、その辺に佐賀県の学力があるので、それを上げていけば、佐賀大学にもっと入学する人が多くなるんじゃないか。それで、県立大学の定員が200人って書いてありますから、佐賀大学に入る人はあと1割か1割5分ぐらいあげれば、そのぐらいの人数になるんじゃないかなと思っています。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。子どもの学力向上についても、引き続き取り組んでいきます。 |
| 347 | 寮ができるかどうかです。例えば、鳥栖とかにできた場合、伊万里から通学するのが大変です。授業料は、唐津でも佐賀の人でも、鳥栖の人でも、伊万里の人でも同じですけど、生活費がやっぱり、通学できないと多額になります。所得の関係を見ると、やっぱり伊万里から、通学できないと、授業料は同じでも、生活費が大変です。寮を必ず作ってほしい、お願いしたいと意見を述べさせていただきました。 | B | 経済的負担の軽減については引き続き検討していきます |
| 348 | 入学定員が200から300は、県内からの入学だけで、と想定されてあるのか。それとも、冒頭挨拶に県外からも、というフレーズがあったので、県外の方も300人の中に含まれてあるのか。それであれば、県外というのは、長崎だと福岡だとか近隣の県を想定したのかをお尋ねしたいです。 | D | 近隣の県に限らず、県外からの入学者も想定しています。 |
| 349 | 基本構想の大学の設置場所っていう項目で、企業、研究機関、教育機関などの関係機関との連携を図る観点と、通学の利便性も考慮と書いてあるわけですね。色々、解釈の仕方によれば、すでにその自治体の中に、企業、研究機関、教育機関などが、関連機関がすでにあるところ、あるいは、通学の利便性の非常にいいところ。 じゃあ、悪いところはどうなるんだろう、と。これは、色々、考え方の視点によると思うんですが、今日、みんな来てらっしゃる市民の方は、ぜひ、伊万里市へっていう強い気持ちで、参加してるんです。そういう中で、伊万里市も、他の自治体に比べて、いい条件ばかりは備えておりません。中には、ちょっと劣ってるかなとか、あるいは、教育機関とかって、研究機関、佐賀大学の、国の機関の、海洋温度差の研究所とか、他にない優位性を持ってるとか、色々あるわけです。そういう中で、こういう条件をつけられると、私は、すでに選考の前で条件を備えてない自治体との、もう1抜け、2抜け、そういう印象を与えてしまう。 ですから、大学の設置場所って、佐賀県でいいんじゃないですか。いろんな条件ってね、今後も条件をつける必要なくて、県内のどこかというだけで。いろんな、こういう具体的な例をつける必要ない、県内に作るんだというだけのね。そういうのをやっぱり県民に対して示してもらわないと。この段階で具体的な例を挙げると、優劣っていうか、自治体格差が出てきてしまう。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|--|
| 350 | 素案に鳥瞰力という言葉が何回も出てきます。いわゆる俯瞰的な見方ですね、上から第三者的な見方、そういうことができる学生を育てると、そういう教育をします。ただ、そういう立派な人材を育てるためには、立派な教員が必要だと思います。そういう立派な教員をあと4年ぐらいで集められるのかどうかお尋ねです。 | B | 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 351 | 県内の大学卒業者の就職のことについて書いてありましたけど、そういう立派な人材が出ていける佐賀県内の企業があるだろうか、とお尋ねです。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 引き続き、企業誘致にも取り組んでいきます。 |
| 352 | 設置場所について、通学の利便性等を考慮し決定するというものについても、一定理解はしておりますが、全国的に見ましても、少子化の中で、人口規模が多い都市部の大学を見ても分かる通り、駅があるなど公共交通機関が整っている場所に設置されている大学も、実際、閉校に追い込まれているような現状があると思います。このことは、結局、その場所とか都会であるとかそういうことではなくて、何を学ぶことができるかなど、大学の特色が重要であると考えています。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるように取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 353 | 素案の中に、学ぶべきことが色々、経営理論であるとか、情報システムとか書いてありましたけど、そういうことは、他の大学、佐賀大学なんかでも、重なる部分があると思うんです。新聞に、佐賀大学の学長さんのインタビューも載ってましたけども、その中で、差別化を図っていただければいいんじゃないかと、そういう風に言われてました。それでも、例えばIT関係といえ、大学じゃなくても専門学校でも学べるわけですよね。県立大学でなければ学べないこと、そういうのをしていただければと思います。どうしても大学でないとダメとなると、やっぱり、重なりますけど、素晴らしい教員を雇ってカリキュラムを作っていくという風にしていただければと思います。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。 |
| 354 | 経費として10億円、そのうち国から地方交付税として8億円程度来るので、実質、県からは2億円程度で済むだろうと。2億円で済むけど、8億円っていうのは元々税金ですよね。だから、2億円しかいらぬから作るという考え方は基本的におかしいと思うんですね。2億円も出さずですよね。県から。すごい金ですよね、と思います。県財政からしたら。財政それほど裕福ではないと思いますので。 | D | 2億円を少額と考えているわけではありません。 県の財政運営への影響等を懸念する声もあることから、国から県に対して公立大学設置に伴う地方交付税が交付される見込みであることを説明しています。 今後とも丁寧に説明していきます。 |
| 355 | まだ先のことになると思うんですけど、国際交流として、留学生を受け入れるような考え方も少しはあるかどうか。大学院まで考えてるなら、そこらへんも考えてあるかなと思ひます。 | B | 視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます |
| 356 | この構想の中身では、設置は1学部という風なことで、先ほど総合大学を目指すべきだという風なご意見もあったかと思うんですけども、これは将来的に学部を増やしていくとお考えなのか、伺いたいと思います。 というのは、地元、佐賀県で活躍できる人材をとというのが、基本的に、お考えになっていらっしゃるのだと思うんですけども、私が今仕事をしているところの部分で思いますと、やはり医療、介護、福祉についての人材不足というのは、危機的状況にあります。 西九州大さんがありますけれども、やはり東の方にある大学という部分で、県都ですとか福岡を見てるのではないかというようなところがあって、こちら、西の方に目を向けてもらうという部分がなかなか難しいと実感しております。 そういった部分で、IT関係、非常に今から、大事なところかと思うんですけども、人と直接関わる分野についても、ぜひ県内で活躍できる人材を育成するよう、県の方にもお考えいただきたいという思いをもって、こちらに参りました。県のお考えをお伺いしたいです。 | B | 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|---|
| 357 | 情報分野については、ぜひ、セキュリティというものを技術として持つようなイメージを、あらゆる面で今後必要になってくるんですけど、その辺のところを入れていただければなという風に思っています。知的所有権的な取り組み、も考慮していただくようにと思います。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 358 | ぜひ、目先のことだけでなく、将来の、30年後、100年後も考えて、より広い視点で。私、大学作るのは、大賛成ですけどね。始めから、ぜひ、その点を考えて、スケールの大きい大学を作ってほしいと思います。 | A | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |
| 359 | ことをやるのに遅すぎることはないということ、よく聞きますけども、なんで今更って思います。やっぱり人がいての学校だと思うんですよね。報道とかを聞いておりますと、色々福岡とか、地理的に条件が悪いからということですけども、それはわかっております。だったらもっと前にね、やるべきだったことではないかと思うんですよ。今になって、ということではないと思うんですよ。 今度、今年の最低賃金のアップ率で佐賀は話題になりました。それは福岡に近いからあげないと福岡に流れていくんだというような意見もあったらしいんですけどもね。それであれば学校も一緒じゃないかと思うんですよ。もし、県立大学を運営していくこととなれば、学費とかも県、国費とかで支援すればいいと思うんですよ。人間の数が変わっても、それは誘導的に小回りが利くと思うんですよ。 | B | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。経済的負担の軽減については、引き続き検討していきます。 |
| 360 | どうしてもということであれば、宇宙を含めた航空関係の特殊な大学校を作っていただきたいと思うんです。その場所は1番佐賀県で伸びしろがある上場です。どこにでもあるような学校をいくら作っても一緒だと思いますから、特色のある学校を作って、どうせ作るなら世界からあの学生を集めてやってほしいと思います。 同じものをいくつも作ってもね、空き家をつくるだけじゃないかと思います。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 将来的な学部の増設については、開学後の状況をみながら検討していきます。 |
| 361 | DXだったり、外国語だったり、経営、そういったものを、学んで戻った1人として、できれば、保育園、幼稚園の頃から、そういった教育を進めることが、地方創生の唯一の、最大の投資だという風に考えております。 それも含めての、ご質問なんですけども、先ほどの、2800名のうち、実際、どれぐらいの数、どれぐらいの割合の学生さんが佐賀県の大学を選ばれるのか、そういった想定の数をお持ちでしょうか。 | B | 統計データはありませんが、県内進学を希望しても選択肢が限られているため、やむなく県外に進学せざるを得なかったという声を耳にします。 |
| 362 | 非常に賛同するところが多かったこの大学の中身ですね。先ほどの、どれぐらいの割合の方が佐賀県の大学を選ばれるか、会社もそうです。数的には、佐賀県にその募集の数がたくさんあれど、これ大学卒業して佐賀県のこういった仕事に就くとは思いませんと、そういった方もいらっしゃると思います。ただ、そういった中で、県内にいながらも、県外の仕事だったり、それこそ海外の仕事も含めて、県内で仕事ができる環境が、非常に、このコロナ禍で良くなってきてますけども、パートナー企業さんみたいな形で、大学のこの取り組みの中に早期から参加していただきたいってどうか。地域でのDX人材の養成、といった話をさせていただいてる企業もある。ぜひそういった民間の取り組みとうまくブレンドされながらこれを進めていただければと。 | B | 産業界、県の産業政策とも一体となって、人材の育成や就職先の開拓に努めていきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 363 | 唐津市では、平成2年頃から県立大学の誘致はあったかと思いますが、未だに実現してない状況です。それが、今回の取り組みとどう違うのか、また、実現できなかった要因など教えてください。 | D | 佐賀県では、過去に2度、県立大学の設置の必要性が議論されましたが、大学改革や地方財政制度の変革により、断念せざるを得ませんでした。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 364 | 立地については、1番、関心があるのかなと思っておりますが、その選定方法とか、選定基準などがあれば、教えてください。また、規模と言いますか、敷地の大きさとか、そういったもので想定があるのならば、教えてほしいと思います。 | D | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 仮に収容定員を1000名程度とした場合、大学の設置認可基準によれば、最低でも1haの敷地面積が必要です。 |
| 365 | その選定期間や、工事の時期や、開校時期などの大まかなスケジュールがあればご提示願いたいと思います。 | D | 開学時期は令和10年4月以降を予定としています。 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 366 | 佐賀県や唐津市の求人は十分にあり、それに対して、設置される学部は、マッチしているのかどうかですね。経営情報学部が、プランとして書いてありますけれども、これで賄えるものか、もしくは、いったら専門学校のようなので、済んでしまうようなレベルであっては困るなとも思っていますし、子供たちにはより高度な、教育を施してほしいと思います。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 367 | 今回の県立大学、去年ぐらいからニュースでやって、期待しています。 5年後の設立で、9年後に卒業生が配置されることで、我々企業としては、受け入れのためにどう準備をすればいいのか。もっと言うと、就職に選んでもらうためには、どのようなことを、心がけるべきかというのを、教えていただきたいです。 | B | インターンシップ、実務家教員、実践的な課題の提供などにご協力をお願いしたいと考えています。 また、早いうちから学生と県内企業の接点を設けるような取組を検討していきます。 |
| 368 | 子供たちが卒業してこの大学に行きたいと思われるように、しっかりと時間をかけて、親の世代に、こういった大学を作りますという風な内容を、しつこいくらいに提示していただきたいと思います。 | B | 広報のあり方、手法については今後検討していきます。 |
| 369 | 県立大学、それについては基本的に賛成はさせていただいています。 説明の中の観点が全て18歳未満という切り口で議論を展開されているかと思えます。県内に住む18歳は、大学ですから、当然対象となるんですが、もうトレンドとして、人口は減少してしまっていて、高度なアカデミックプラス実学レベルを、実現するならば、同時並行的に、社会人、例えば、県内企業におつとめの方あたりを対象にした大学院教育、MBA、MOT、こういったものをご検討いただくと、いいのかなと思います。実際問題、大学院、MBA、MOT等はオンラインでも、実施可能ですので、そういったところもお考えになると、いいのかなと。 | B | 学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。 |
| 370 | マーケティングの観点から提言させていただきますと、経営情報学部というのは非常に興味があるところですが、他大学さん、もう似たようなことやってると思います。 例えば、国際教養大学で、これはもう英語教育が突出したものがございます。地域的なものは関係ございません。今、ブランド価値を上げるならば、非常に突出したものの、例えば、スタッフであったり、こういった方に、コストをかけて、来ていただくということも考えて、唯一、独自の県立大学を打ち出すという方法もありなのではというふうに思います。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|---|-----|---|
| 371 | <p>先ほど、どういう大学かっていうのをこの後の話の中で考えて決めていくということだったんですけども、まずそこが先にあるべき。どういう大学、どういう人材を育てる、はっきり、くっきりするぐらいのものを先に持たれるべき。</p> <p>シンガポールだったり中国だったりアメリカだったり、そういった大学と比較して大学ができればいい。そういったあの情熱を持った大学を佐賀で作っていただきたいと思います。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるように取り組んでいきます。</p> <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 372 | <p>マーケティング、DXという言葉が、たくさん出てますけども、多分にですね、今進められているこの流れ、フローって言うんですか、それ自体マーケティングから見るとちょっとおかしいんじゃない。必要なものが欠けている。</p> | D | <p>大学進学時に県外に8割以上（約2,800名）が進学しており、若者の人口流出が課題となっています。</p> <p>県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。</p> |
| 373 | <p>教育現場ではですね、保護者の方がやりたい大学、子供たちで言うと自分が行きたい大学、教師側から言うと薦めたい大学っていうのでなければいけないと思います。皆さん方が熱くおっしゃってる通りだと思います。</p> <p>最近では、東京まで行こうとかっていう子たちが少なくなりました。そういう中で、例えば実際、北九州大学のように九州の人たちがやっぱりやりたい、行きたいという大学、そういうところを1つ目指すべきではないかと。実際、保護者の方をバスターで九工大とか北九大についていくと、やっぱりいいな、学食を見て、学ぶ環境を見て、ここはいいなっていうところに親ももうやりたいっていうことです。</p> <p>ですから、どこに立てるかは非常に重要な問題だと思います。これからこれからはおっしゃってますけども、本当に大事なことだと思います。</p> <p>それから、魅力ある大学ということであればですね、やはり学びの内容、それから費用を、県立大学であれば、地元の方たちは、学費が安くしていけるんじゃないか。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> <p>経済的負担の軽減については引き続き検討していきます。</p> |
| 374 | <p>県民から言うと、聴講生ようになって社会人として学べるのか。唐津の地区だとなかなか福岡行ったり、どっか行って学ぶという機会がない。</p> <p>県立大があれば、わずかなお金で、聴講生として、聞きたい。リモートはいいでしょうけども、高齢者にとっては実学で、1番前の席で陣取って、生の本当に勉強したいことを学べる大学っていうのが県立大学の魅力じゃないでしょうか。地方の大学だからこそできるのではないのでしょうか。それを考えてます。そういう意味では、例えば、よその大学にはないような実学や焼物であったり、観光であったり。ここらへんで言うと、歴史です。吉野ヶ里遺跡にどれだけの人が見えたでしょうか。千葉県あたりからご夫婦で、こんなに穴を掘ってると初めて見た。ああいう方たちが世の中にはいっぱいいらっしゃいます。</p> <p>もしくは自分のお子さん方をこの県立大学にやりたいと思うようなことを考えるためにも、単なる机の上で学ぶようなことではなくて、吉野ヶ里の遺跡とかいろんな焼物とかいうカルチャーみたいなものも学べる、そういう学部、学科も考えるべきではないでしょうか。</p> <p>誰かおっしゃいました、よそにあるような学部だと、今更後発として作って、果たして人が来るんでしょうか。少子高齢化だからこそ、優しい町に作られている、県立大学、人との触れ合いのある優しい県立大学というのを考えられたらいいかがでしょうか。</p> | B | <p>リカレント教育の内容、学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> <p>将来的な学部の増設については、開学後の状況を見ながら検討していきます。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 375 | <p>県立大学構想については賛成の立場から若干のご意見を今言います。</p> <p>通常、大学は多分教育と研究が要素であると思います。そんな中で、教員の確保、優れた教職者について記載がなかったのか気になりました。多分こういう議論をする時に、皆さんいろんなことを言いますが、やはり教育は理想であるといえます。</p> <p>どういう人材がってということもありますし、どういう研究をやって社会実装していくかっていうことを言える人がこの場にはいないってのがちょっと残念だなと。一体学長を誰がするのかとか、どういう技術職の専門家が入るのか、これによってこう大学の魅力って全然違うと思うんですね。</p> | B | <p>協力いただく大学教授等のネットワークなども駆使しながら、質の高い教員確保を進めていきます。</p> |
| 376 | <p>他の大学に打ち勝つ経営モデルを提案して、こんな魅力ある大学を作るんですと。それを打ち立てない限り、何か未来が見えない。これは、自分も応援したいがためにって意味でございます。最初から、この資料にあるのはなにかソリューションになってない。今の社会課題を解決するために、人口減少を解決のために大学を作らなきゃいけない、ではなくて、この佐賀、これから未来を開拓するために、こんな人材を発掘して、世界中からこう、佐賀に来たくするような大きなコンテンツになるんだってような、ぜひ大学を作っていただきたいと思います。</p> | B | <p>ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。</p> <p>カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。</p> |
| 377 | <p>基本的に、県立大学の設置について、賛成の立場です。</p> <p>佐賀県出身者の受け入れとありまして、この中で、県立大学附属コース、クラスなどを検討するという風なことを言われました。どういう形態の高校を考えられているのかと、その大学設置の場所と、セットで考えられるような形にあるのかをお尋ねします。</p> | B | <p>どのような形で高校と大学の連携を図っていくべきか、引き続き検討します。</p> |
| 378 | <p>県立大学賛成という立場で。</p> <p>佐賀県出身の受け入れとかいうのがあって、受けが良さそうなんですけども、私の子供が唐津東高校にいた時の校長先生が、お前たちは遠くの大学に行けど、そこでこうたくましい人間力が生まれる、育まれるというような言葉だったと思うんですけども、県内の人が、なんとなく小さな人間を育てる感じが、説明を聞いて思いました。</p> <p>もう1つはですね、まさに枝葉に属する提案で検討していただければ結構なんですけども、県立大学ですので、県下全域に効果が現れるようにしてほしいという感じがいたします。県立大学の設置により、教員、学生が集まることにより、町の振興や交流人口の増加、ボランティアなどの確保にも影響があるという風な意味も含めて言いますと、研修施設があってもいいんじゃないかなと。研修施設は、例えば佐賀大学の研修施設が、神集島にあるんですけども、本学と距離の離れたところに研修施設を設けることによって、先ほどの、派生的な効果であるとか、また、そこでの研修によって、たくましい人間を育てるとか、そういうところも、今後の検討にいただければ幸いです。</p> | B | <p>県外大学への進学を希望することを否定するものではありません。県内大学への進学を希望する子どもたちの選択肢を増やしたいと考えています。</p> <p>視野の広い人材を育成するために、多様な学生が交わる環境づくりを検討していきます</p> <p>学部での学びの在り方については、専門家とともに検討していきます。</p> |
| 379 | <p>個人的には、大学の設立については、賛成なんですけれども、色々と、解決しなければいけない問題があるんじゃないかなと思ってます。県立大学なので、県内の広域にメリットをもたらしてほしいという、ご意見ありましたけれども、現状で、県が考えられてるのは、キャンパスの設置は、1か所に集中して行われるのでしょうか。それとも、複数にキャンパスを分けて設置するっていうことも検討されておられるのでしょうか。</p> | B | <p>設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。</p> |

※区分

「A」基本構想の策定に際し、参考としたもの／「B」今後の実施段階で参考にするもの／「C」基本構想への反映が困難なもの／「D」他の施策に関するもの、その他

※同じ意見であっても、意見を提出された方・団体等が異なる場合は、それぞれ掲載しています。

| 番号 | ご意見の内容 | 区分※ | ご意見への対応 |
|-----|--|-----|--|
| 380 | 設置場所について、利便性を考慮して決定するという風に書いてあるんですけども、現状で交通インフラ等が整っている地域に設置をされるのか、それとも、今後そういった大学を誘致することによって新たな都市計画とか。人口の流入とかだって、今までとちがったり、頭打ちになってできないような、交通整備だったりとか、いろんなまちづくりができる可能性があると思うんですけど、今後そういう風な発展の可能性のある地域も含めて、設置する場所を考えられるのかということをお聞かせいただいでよろしいでしょうか。 | B | 設置場所については、大学の機能、ソフト面などを固めていくなかで、それに見合った場所を決定していきたいと考えています。 |
| 381 | 大学というものが町に対して一体何の意味があるのだろうってことをずっと考えてまいりました。やはり、私は、1つ、大学はアーカイブ機能と言いますか、色々、この活動を見ながら、地域で学んで、地域のことを資料としてどんどん残していくというのが、大変、大事だという風に思っています。なので、こういう県立大学ということができると、学生さんが、各地、大変地域づくり、盛んに行われてると思います。それを、学びとして、きちんと、残しながら、やっていただけると大変嬉しいなと思って、話を聞いておりました。当然、ビジョン、どういった人材育成するか、本当に、誰がいるからここに行くってというのは、学生としては、あると思います。恐竜のことが学びたいから、恐竜の大学に行く、親が学んだ先生がいる大学に行く。なので、これから、議論を深めていただいで、より良い、佐賀県にマッチした県立大学をつくっていただけたらと思います。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 382 | 次の座談会、もうちょっと詳しく決まった段階で、どういう大学にしていくかっていう話し合いの場が、またあるのかお伺いしたいです。 | B | 今後も県立大学の検討状況については、わかりやすく伝えていく方策を考えていきます。 |
| 383 | 九州大学が移動して、かなり海外からの人がみえられています。県の中というよりも、他のところから人が来るっていう方が、大学の成功には近いのかなとは思っています。その辺りを基本理念の中で、チャレンジし続ける大学っていうところが入ってると思うんですけど、設立される側が、チャレンジしていただきたいなっていうところがあって、利便性がいいとこで作るっていうのは、もちろん、それも1つ大事なことだと思うんですけど、利便性よりも、ビジョンですね、実現されるように近いようなことを、中心に考えていただいで、県内、もちろんどこも重要だと思うんですけど、日本、もしくは世界に羽ばたいていけるような大学にいただいたら、経営がどうこうっていうのはほぼ考えずに、やっていけるんじゃないかなとは思っています。 | B | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 カリキュラムは固定化することなく、時代の要請に応じ、随時見直します。 |
| 384 | 私が今聞かせていただいた範囲では、この県立大学構想、大学を作るのにはなまるで反対はあまり聞きませんでしたけども、明確な、もろ手を挙げて拍手してという声はあまり聞こえてこなかったんですよ。 唐津が最後とお聞きしてますけども、この座談会、こういう意見をお聞きになってですね、どういうお感じなのかをお聞かせいただければ助かります。 | D | 県立大学の設置は、県内進学時の選択肢の増加、産業人材の確保、さらなるイノベーションの創出といった、佐賀県が抱える構造的な問題に直接アプローチできる施策であると考えています。 |
| 385 | もし作るんだったら、どこでもあるようなやつじゃなくて、佐賀のキャッチフレーズは佐賀を探さそうとかいうのがありますけども、探さなくてもわかるようなやつを作ってください。空き家にならないようなやつを。ベビーベッドを買って子供も生まれるのを待っていても、子供が生まれないんだったらそれ何にもならないんですよ。 作るなら特色がある他にないやつを作って、末長く佐賀の勲章になるようなものを作っていただけたらと思うんですよ。 | D | ITと経営の理文融合を目指し、地域の産業を担う人材を輩出できるよう取り組んでいきます。 |